



その人、田池留吉 II

田池留吉の世界 自然治癒力

塩川香世



その人、田池留吉Ⅱ／目次

1. はじめに 4

2. 肉體細胞から限らない優しさが

流れていることに気付いてください 18

3. 自然治癒力をフルに発揮させるためには…… 36

4. みんな幸せになろう 52

5. 1 + 2 = 3 の真実の波動の世界 63

6. 自然治癒力は、すべてを生かす喜びのエネルギー、パワー

121

7. おわりに 184

その人、
田池留吉Ⅱ
―田池留吉の世界「自然治癒力」―

1. はじめに

私は、「この世の中のどこかに必ず本当のことがある」と思っていたけれど、その本当のこととは何かが、全く見当がつきませんでした。

しかし、自分の心の中に、「この世の中のどこかに必ず真実はある」といった思いを、ずっと以前から感じてきたことは確かでした。

楽しいことや嬉しいことが日常生活の中であつても、どこかで冷めている自分がありました。なぜなんだろうかと思ってきました。

心の底から喜び切れないんです。楽しいなあ、いいなあと思ったそのすぐあとから、妙に空しさを感じてきました。

私自身は、何かを買って嬉しい、どこかへ行つて楽しい、美味しいものを食べて幸せ、何か目標を持つてそれに向かつて頑張っていることに、ある種

の充実感、達成感を感じて満足しているのに、それとは別の私がそこにいるんです。実は、私は、ずっとそんなことを感じながら生活をしていました。

そして、ある時期に、ある現象をきっかけに、「心を見えるという学び」に集わせていただいたのです。正確に言えば、集わざるを得ない状況に自分を追いやったということです。

それから、『心を見る』とはどういうことだろうか」と自問自答しながら、そして、「別の私がいると感じてきた私を納得させるものがここにはある」と感じながら学ばせていただき、早二十年近くの年月が流れています。

今は、当時感じてきたことは私の中で納得しています。

あの時、心の底から喜び切れない自分が本当の自分でした。それまで、私は、ずっと偽にせの自分ばかりを中心にして時間を過ごしてきました。だから、どんなに楽しくても、どんなに充実感に満たされても、空しさがあとから迫ってくるのは当然でした。

喜び切れない本当の自分が、それは違っていることを教えてくれていたの

でした。

皆さんは、どうでしょうか。

私が感じてきたことと同じように、「そう言えばそうだなあ。今、私には差し当たりの問題はなく、何となく生活をしているけれど、私も、実は心のどこかに、何かそぐわないもの、しっくりいかないものを感じているんだ。本当にこのままでいいのかなあ」と感じておられるならば、少し、この本を読んでみてください。

ところで、「自然治癒力」という言葉は、割となじみのある言葉かと思えます。そこから連想するものと言えば、病気とか、病むとか、傷つくとか、そういうものでしょう。

例えば、病気とくれば、あなたはどんなイメージが出てきますか。

私は、「心を見るという学び」に集う約二十年前までは、病気ということ

に対して、マイナスのイメージしかありませんでした。

身体が病む、心が病む、それは、できれば自分を含めて、私の周りでは起こってほしくない出来事でした。

人間は、加齢とともに弱っていき、死を迎えることは理解できても、若くして難病に侵される、あるいは若くして死を迎えることは、私の中で受け入れ難いことでした。

また、精神的に不安定だとか、そういうややこしくて、理解に苦しむ心の病が、なぜ私達人間に発症するのだろうか、これもまた暗いマイナスのイメージを私の中から払拭^{はらいつく}することは困難でした。

それが、何と、私はその受け入れ難い現象が自分の周りに起こり、前々から母より話だけは聞いていた「心を見るという学び」に集う結果となったのでした。それが約二十年前でした。

寝耳に水の出来事は、何かの促しだと思いました。それまでの自分の生き方の方向が間違っていたことを、端的に自分に示したとしか言えないと思い

ました。驚きと戸惑いはありましたが、私は自分を正しい方向に向かわせたと、その当時の早い時期に感じ、自分なりに真面目に学んできました。

病気ということに対して、マイナスのイメージしかなかった私は、目に見えて触れることができる形のある世界しか考えられなかったし、それがすべてだとしてきたのです。それが私の現実だと思ってきました。

そんな中で、「死んで花実が咲くものか」と嘯^{うそ}いてきたのです。自分の人生を考えても、有限の中でしか考えられなかったのです。

そんな自分の考え、思いのすべてが間違ってきたことを、私は学びを進めていく中で知っていました。

形の世界が本物であり、それが現実だとするところから、自分の人生を考え、自分を感じてきたのです。私は、それがすべての間違いの元だったことを学んできました。

と言って、「あなたも『心を見るという学び』をしてみませんか」と強制しているではありません。また、勧誘しているわけでもありません。

ただ、「あなたも本当のことを知りたくありませんか」「本当のあなたに触れてみたありませんか」という思いで、この先を綴っていかうと思います。

自然治癒力というテーマを通して、私達は、本当の喜びと温もり、優しさを忘れ去ったこと、つまり、本当の自分を見失ってきた私達だったことを伝えていきたいと思っています。

そして、一人でも二人でも、「本当の自分と出会える道を歩いていける今なんだ」と、心で感じていただけたらと思っています。

その前に、ここで、「心を見るといいう学び」について、先に少し触れておきたいと思います。

「心を見る」とは、あなたが、日々生活をしている中で、あなたの心の中に浮かび上がってくる思い、特に苦しい思いを確認していくことです。

苦しい思いとは、例えば、怒る、争う、競う、見下す、責める、支配する、

嘆く、卑下する、誇る、蔑む^{さげす}、嫉妬^{しつと}する……といった暗い思いです。

まだまだ暗くて重い心の内はたくさんあると思いますが、このような暗くてドロドロした苦しい思いを、私達は、常日頃、頻繁に流しているのです。

しかも、殆ど^{ほとん}の人達は、そういう思いを無頓着に流しています。

よしんば、「ああ、そうだったなあ」という人でも、そのような思いが暗いとか、重いとか、ましてや、それがそもそもの誤りだなどということとは、全くと言っていいほど知らないと思います。

とにかく、私達は、朝起きて夜寝るまで、色々なことを見て聞いています。テレビ、新聞、パソコン等を通して様々な情報に触れ、そして、また同居する家族の人達、日々関わり合っていていく人達を通して、私達の心の中には色々な思いが起こつてくるのです。

しかし、殆ど^{ほとん}の人は、心を見えるという習慣がありません。

だから、ある日突然に、何か自分達に不都合なこと、俗に言う不幸せなことが起こつてきたときに、「私達は何も悪いことはしていないのに、何で私

達だけがこんな目に遭うのか」と、よく言うではありませんか。

何も悪いことはしていない、それは確かにそうかもしれません。

世間様から後ろ指を指されるようなことをした憶えもないでしょう。

しかし、です。

実際に、今、目の前に起こっている出来事の前に、すでに自分達には色々あったはずなんです。そして、そのたびに、色々と心が動いてきたのです。その心の動きを見ていったならば、先に書いた色々な苦しくて暗くて重い思いを、過去どこかで必ず出してきたと知っていくでしょう。

もつとも、過去出してきた思いと、今、目の前に展開している出来事とが直接結びつくとは限りません。あの時、こんな思いを出したから、今、こういう目に遭っているんだとは一概に言えないかもしれないかもしれません。しかし、少なくとも、自分達は何も悪いことはしてこなかったとは決して言えないんです。自分達が日々流しているエネルギーのすごさを知っていけば、決してそうは言えません。

ただし、自分達から流れているエネルギーのすごさを知っていくことは難しいです。そもそも、殆ど^{ほとんど}の人達は、自分達からエネルギーが流れていることと自体、知らないのではないのでしょうか。

例えば、怒りのエネルギーは、自分の肉体細胞を破壊していくほどのすごいエネルギーだとは、殆ど^{ほとんど}の人は分らないと思います。

それほど、もともと敏感だった私達の心は、欲にまみれて鈍感になってしまったんです。

そして、心というのは目に見えません。だから、心が動いていても、言葉や態度に出さなければ相手に分からないとか、ただ自分の胸の内に秘めていればいいのか、そう思いがちです。しかし、そうではなくて、実は、心が動くということは、あなたの心からエネルギーが流れ出しているということなんです。

そして、それはどんなエネルギーかと言えば、先ほど語ったように、暗くて重いエネルギーです。エネルギーだから仕事をします。

そのエネルギーが、色々な形で現象化していくということです。

もちろん、暗くて重いエネルギーは、言ってみればマイナスのエネルギーです。

マイナスのエネルギーはマイナスの仕事をします。

形としては、破壊、崩壊^{ほうかい}、分裂^{ぶんれつ}ということでしょう。

それでは、そのマイナスのエネルギーは、ずっとマイナスのままなのでしょうか。

ここからが大きな分かれ道なんです。それは、どうということかと言えば、形となつて表れてきた現象を通して、自分の心を見つめるということをしていくか、していかないか、その岐路に差し掛かっているということなんです。心を見ることを知らない人は論外ですが、心を見ていけば、マイナスと思つてきた現象から、私達は色々、色々学んでいけるのです。いいえ、学んでいかなければならないのです。

つまり、それらの現象は、「今、目の前にこんなことが起こっていますね。

それを見て、あるいは聞いて、あなたの心からどんな思いが出てきますか。そして、それは明るい思いですか、暗い思いですか」と、私達に絶えずメッセージを送ってくれています。

心を見ていけば、そういうふうを受け取っていけるあなたになっていけるんです。

心を見ることが、現象を通して学ぶということになります。そして、学んでいった結果、必ず、この世にマイナスのエネルギーはなかったことに気付けます。マイナスは必ずプラスへ帰すことができることに気付いていけるんです。

また、プラスのエネルギーは、さらにプラスが強くなっていく。つまり、喜んでいけばいくほど、喜びのエネルギーは大きくなっていくことも知っています。

一方、自分の心を見ることがなければ、マイナスをマイナスのまま抱え込んでしまいます。だから、また時が経てば、抱え込んだマイナスのエネルギー

が噴き出していくんです。

このように、心を見ることが、とても大切なことであり、これしかないことを最初に知っておいてほしいと思います。

「心を見るところを学び」と書きましたが、本当は学びではなくて、私達人間はみんな、心を見ていかなければならないということです。そして、私達は、目に見える世界ではなくて、目に見えない世界があることに、もっと注目すべきなんです。つまり、それは、意識、波動、エネルギーの世界です。そして、それらの世界には、プラスとマイナスがあつて、プラスとはどういったことなのか、マイナスとはどういったことなのかということも、私達は、自分の心で知っていくべきなんです。

私は、そのことを自然治癒力というテーマから語っていきたいと思います。そして、一般的に解釈されている自然治癒力を含めて、私が感じている自然治癒力とは、どんな世界なのかを綴ってみたいと思いました。

そして、自然治癒力というのは、もともとプラスのエネルギーですが、目に見える世界を本物とするところで解釈されている自然治癒力と、目に見えない世界を本物とするところから感じる自然治癒力とは、同じプラスでも雲泥の差があります。

そういうことも、本書を通して読み取っていただければ幸いです。

面白おかしく生きて、場当たりに生きて、暖衣だんい飽食ほうしょく、酔生夢死すいせいむしの中で大切な時間が過ぎ去っていつて、あるいは、仕事に明け暮れ、家族のために生きて、ああ、私の人生は一体何だったのだろうかと思いつながら、この世を去っていくことだけはやめにしませんか。

「心を見えるという学び」は、自分を本当に大切にしよう、自分のことを、もっと、もっと真剣に真摯しんしに考えていこうという学びなんです。

そして、この心を見えるという作業には、体力、気力が必要なんです。

だから、もともと私達にある自然治癒力をフルに発揮させて、そして、身

体も心も元気になって、皆さん、どうぞ、ご自分の心を見ていきましょーと、私はお伝えしたいのです。

なぜ自分は生まれてきたのか。何をするために生まれてきたのか。なぜ自分は死んでいくのか。死んでどうなっていくのか。そういうことに自分の心で答えが出せるまでにならないければ、本当の喜び、温もり、優しさの中にある自分と出会うことはできないことを知ってください。

さて、前置きはここまでにして、次の章では、私達の肉体細胞について、語っていききたいと思います。

2. 肉体細胞から限らない優しさが

流れていることに気付いてください

「はじめに」のところでも記しましたが、本当の自分を忘れ去ってきた私達にとって、病気というのは、やはりマイナスのイメージでしかないと思います。

特に、一家の大黒柱が倒れたとなれば、経済的にも精神的にも重い負担が家族にかかってきます。

それが、重篤じゅうとくともなれば、それは大変です。高度の先進医療を充分に受けるには、お金がかかります。もちろん、自らを実験台として捧げる覚悟も要ります。

「まだ死にたくない」「こんなに苦しくて辛い毎日ならば、いつそのこと、

ひと思いに死にたい」、病氣という疫病神やくびようがみに取りつかれたら最後、私達は、本人も家族も、寝ても覚めても、暗い暗い世界を引きずってしまいます。

容体に一喜一憂しても、ということは分かりながらも、看守る家族の身体も、心もゆつくりと休まることはないと思います。看護する時間が長引けば長引くほど、家族の疲労は濃くなっていきます。

それも、快方に向かつて看護するならば希望もあるけれど、死を待つだけの看護は、やはり苦しくて辛いものがあるでしょう。

こういうふうを考えれば、病氣という現象は、周りの人達の生活のリズムを崩していきます。特に、死を考えざるを得ない状態ともなれば、本当のことを忘れ去った私達には、非常に厳しい現実を突き付けられているという感覚しかないと思います。

だから、願わくは、無病息災がいいんです。しかし、生身の人間ですから、そうはいきません。ストレスから肉体的にも、精神的にもダメージを受け、人生半ばにして、人生設計を大幅に変えざるを得ない場合も多々あります。

生まれつき虚弱体質の人もいれば、健康な肉体を持ちながらも、色々なことが原因で体調を崩し、あつけなくこの世を去っていく人もいます。

また、長く体調不良が続ぎ、入退院の繰り返し、いつも、いつも身体のことばかりが気になって、もちろん、医者と薬からは縁が切れなくてという人もいます。

一病息災ということ、上手に病氣と付き合つてという程度のものならば、まだまだ気楽なものです。ところが、死の宣告を受けた人は、そんな心の余裕などありません。

あちらの医者、こちらの医者、あの治療、この治療、あの薬、この薬、最後は神頼みまでして、何としてでも病氣というものをやつつきたいと思つてしまいます。

世間では、病魔とか、闘病という言葉があるように、病氣は、受け入れるものではなくて、闘つて克服すべきものとなっています。そして、元の健康体とまではいかないまでも、何とか、何とかという思いは、最後まで捨て切

れないかもしれません。死を静かに受け入れることは、なかなか難しいのではないのでしょうか。

懸命な治療は続けられますが、やがて、それまでできることはし尽しましたという時期が来ます。

あとは時間の問題です。最後はホスピスに入所して、延命よりも身体的苦痛、死の恐怖を和らげるということでしょうか。

と、ここまで病気はマイナスのイメージだというところから、一般的なことを書きました。ここまで書いたものは、あくまで一般的なことです。

ここからは、こういう現実を踏まえて、私の思いを少し語ってみます。

肉体という形を指して、それがその人だとするところから病気という現象をとらえれば、病気はマイナスのイメージしかありません。そして、そういうところからは、死を静かに受け入れることなど絶対にできないし、当然、

死の恐怖を和らげることもできません。

肉体という形を指して、それがその人だとしている医療現場では、死んだら終わりなんです。彼らにとつて、私達人間の身体は物体なんです。物体のある部分を切り取ったり、付け替えたりして、修繕して動けば成功、動かなければ失敗。

もちろん、彼らは間違いなく、人間は死んだら終わりだと思っています。

もし、仮に、医療に携わる人達が、この学びをして、自分の心の中を見つめ、母親に対する思いを見つめ、自分のエネルギーを心の中にしっかりと包んでいく作業をしてくれたならば、医療現場は、もつと、もつと目覚ましい発展を遂げるでしょう。

私達人間の本当の姿は、肉体という物体ではなく、目に見えないエネルギーなのだとかで知った医師が、例えば、ここに存在するとしたならば、どうでしょう。

その医師からは、間違いなく喜びのエネルギーが流れています。

だから、例えば、その医師が執刀をすれば、そこにすごいエネルギー、パワーが働くんです。その医師が持つ医療技術の何倍も、何十倍も、いいえ、比べることができない愛のエネルギーが手術中に起こり、本当に喜びで、喜びで肉体細胞を蘇^{よみがえ}らせていきます。そして、その温かな優しい波動は、患者の肉体細胞から患者の意識の世界に伝わります。

もし、そのような医師が存在して、医療の場に立ち会っていたとするならば、その患者の身体は、本当に、瞬^{またた}く間に回復していきます。私はそのことが信じられるのです。

私達人間の本当の姿は、こうなんだという意識の転回をしていく医師がここに一人いれば、それは本当にすごいことです。医療の常識は完全^{くつがえ}に覆されるでしょう。

そして、肉体的に病んでいる場合もそうですが、心の病を抱えている人達には、もっと顕著にそれが表れると思います。

この場合、医師と患者の信頼関係の中でという条件がつきますが、意識の

転回^{はかど}が捗^{はかど}っている精神科医が一言、「お母さんを思いなさい」と言えば、たちまち、喜びのエネルギーがその患者の意識の中に伝わっていくんです。何とも言えない柔らかな波動を感じたとき、その患者の様子がどのように変わっていくかです。元々、心が敏感な患者は、その波動をキャッチできるでしょう。もちろん、すべてがそう簡単にはいかないかもしれませんが。

しかし、その医師と何度も、何度も接触をしてカウンセリングを受けるたびに、波動が流れていき、きつと短時間でいい方向に回復していきます。

ただし、残念なことには、そのような意識の転回^{はかど}が捗^{はかど}っている精神科医は、おそらく皆無に近いと言っているでしょう。

まず医師から、ご自分の心を見ることを始めなければなりません。母の反省を通して、自分の心の闇を本当に知っていったとしたならば、もつと、もつと患者に寄り添えるような精神科医になれると思います。

私は、医療技術^{うんぬん}云々というよりも、医療に携わっている人達の心の世界が、もう少し明るくなっていけば、医療現場は目覚ましく変わっていきけると思う

のです。本当の喜びとか温もりを知った人達が、自分達の今持っている医療技術を駆使して、本当の意味で治療に当たられたら、すごいだろうなと思います。

しかし、現実には、心を見ろということ知らない人達が殆どです。

医療現場で最前線に立っている人達も、死んでいく人達に死の恐怖を和らげるお話をする人達も、おそらく、自分達人間の本当の姿は何であるのかということが心で分かっておられないから、肉体を離れたあとの世界など想像もできないというのが、本当のところだと思います。

そのような人達に囲まれて、どんなに先進の医療技術を施されても、死の世界を説かれても、心穏やかに自分の人生を全うできるほど、私達が作ってきた心の世界は生易しいものではありません。

それが心を見てこなかった人達には分からないんです。どんなに凄まじいエネルギーで生きてきたか。もし、そのエネルギーを、それぞれがそれぞれの心で本当に感じるチャンスを得たとしたならば、ああ、こんなすごいエネ

ルギーを、私の肉体細胞は今の今まで受けてくれていたんだと、感じると思うのです。

病気をして、例えば、身体を自由に動かすことができない状態になったとき、逆に自分の身体を思う時間、自分の肉体細胞に思いを寄せる時間が持てます。

肉体的に様々な苦痛を伴う病状であっても、その病んで腐ってきている肉体細胞が、どんな思いを自分に伝えているか、そういうところに思いを向けられる人間、それが本来の私達人間の姿ではないでしょうか。

「自分の本当の姿を見失って、忘れ去ってきた心の世界の醜さ、愚かさから目を背けずに、命の灯が^{ともしび}消えるその瞬間まで、自分の肉体細胞とともにある喜びを感じていきましよう」と伝えてあげることが、死を間近にしている人に対する最大の優しさだと私は思うのです。

そもそも、病気というのは、身体に変調を来す、あるいは心に変調を来す

ということです。

そうしたとき、私達はまず病院へ行つて、医師の診断を仰ぎます。検査を受ける場合もあるでしょう。そして、必要なときは手術ということになります。薬を投与されて、私達はできる限り回復を期待します。

どれもこれも私達の外側から、その自分の現状を回復させるために施されるものです。

病院に行くことも、手術を受けることも、薬を飲むことも、みんな具合が悪くなった身体、あるいは心を、外から元の状態に戻そうとする行動です。

私は、身体などの具合が悪くなれば、もちろん、そういうことは試みて当然だと思っていますが、しかし、それにどうか留^{とど}まらないでくださいということをお伝えしたいのです。

というのは、病気という現象は、病気になった本人にとつても、その周りにいる人達にとつても、大きな、大きなチャンスだからです。

どんなチャンスかと言えば、これまでに綴^{つづ}ってききましたように、自分達の

心を見るという大きなチャンスなんです。

私達は、ある日突然、病氣それも大変な病氣だという厳しい現実を突き付けられれば、ある時期、落ち込み、そして、嘆いて悲しむということはあるでしょう。色々と考えて、気持ちの整理がつかかねるといって、苦しみの日々は続くかもしれません。しかし、本当に苦しいのは、いつまでもそういうところから抜け出せない自分の心なのではないのでしょうか。

私は、病氣と闘って、病氣を克服していこうとする思いは、決して立派な思いだとは思えません。むしろ、とても冷たいことだと思っています。そして、自分の苦しい心をひた隠しに押し殺して、自分の心の叫びに蓋をしたまま、病氣の回復ばかりを願っていく苦しさ、目を向けていただきたと思っています。

今、現実には、肉体的にも、精神的にも苦しい状態の中にあって、その自分達を窮地きゆうちに追いやっていると思っている病氣を、自分達の中に受け入れている。

くことは確かに難しいことかもしれませんが。

病気が自分達を窮地きゆうちに追い詰めていると思ってる間は、難しいです。まさに、病気というのはマイナスのイメージです。ダメージです。そこへ、さらに追い打ちをかけるように、薬攻めの処方待ち構えています。色々な薬をあてがわれ、これでもか、これでもかと病んだ肉体細胞を攻撃していくのです。

死滅、撲滅しようとするエネルギーを心から流し、そして、自分の肉体細胞と闘っている自分の姿を想像してみてください。

助かりたいがために一生懸命することが、その片方では自分を殺していることに気付いていただきたいのです。

治療を受けてはいけなとか、薬を飲んではいけなとかでなくて、治療を受けながら、そして、薬を飲みながら、なぜこういう状態になっているのかという原因を、自分の中に模索していきませんかということなんです。

病気になるには、なるだけの原因があります。表向きには、不規則な生活、

過重な労働、ストレスと様々な要因が重なってということですが、実は、そのもとと根本にあるものがあるんです。

それは、そういう環境に身を置くようになった、そういう環境を作ってしまった自分の心の中の思いに原因があるんです。ただし、それは、心を見るところを始めて、段々にそうだと納得することです。

大抵は、病気になった原因など深く追及することはないで、ただ元気な身体、元気な心を取り戻したいと、その一点張りです。

しかし、病気の苦しさ、辛さだけを訴えるのではなく、根本にある原因を自分の中に探していこうと思えたとき、きっとその時から何かが変わっていくと思います。いいえ、変わっていくます。

毎日飲んでいた薬に対しても、毎日顔を合わせる医師や看護師、そして、看護してくれる家族の人に対しても、自分の流す思いが変わってくるのです。

一言で言えば、優しい思いが流れ出していくのです。今まで自分の外にばかり向いていた心が、自分の中に向いていくということが、とても大切なこ

となんです。

ところで、私は、自分の心を見る学びを始めて、約二十年の年月が経ちました。今、このように語っている私も、二十年くらい前までは、もちろん、肉体細胞に思いを向けるなんてことは、してこなかったです。肉体細胞の存在すら知らなかったと言ってもいいでしょう。

そんな私でしたが、ようやく、肉体細胞は、いつもあなたに語っているんですよ、あなたにメッセージを伝えているんですよ、ということが感じられ、信じられるまでになりました。

私は、今は、日々自分の肉体細胞に思いを向けながら、肉体細胞から伝わってくる思いに沿うような生活をしています。そして、一番大切なことは、外に向く習性のある心の針を、自分の中に向けるように心がけていることです。そうしたとき、本当に私の肉体細胞から、色々な思いが伝わってくるんです。思いが伝わるというのは、私が自分の肉体細胞に思いを向けたときに、

心の中に、本当に優しい、限らない優しさと温もりが広がっていくということです。

そして、その思いは、私がずっと、ずっと前から知っていた思いと同じ思いだったんです。いいえ、私だけではなくて、誰もがみんな知っているあの思いだったんです。

あの思い……、あの思いです。

思わせぶりの表現になつてしまつて申し訳ありません。

しかし、どうぞ、あなたもご自分の心で感じてみてください。ご自分の心で体験してみてください。どうするかという具体的なことは、次の章に譲るとして、次のような肉体細胞からの思いに、まず触れてみてください。

ありがとうございます。ありがとうございます。

私達肉体細胞は、ただひたすら、どの人の中にもあった喜び、温もりの世界を伝えています。

私達肉体細胞の波動と同じ波動を流してくださいと、私達はすべての人に伝えていきます。しかし、私達に思いを向けてくれる優しい、優しい人は、あまりいません。

自分の身体の調子がおかしくなったとき、肉体細胞に異変が生じたとき、自分の欲で、死にたくない、私は死にたくない、病氣から私を救ってくださいという思いばかりが流れてきます。

私達肉体細胞が病み腐っていけば、目の敵にしてやつつける思いだけが流れてきます。

私達肉体細胞を切り取り、排除しても、心の中にある闇の部分を自分の中で知らない限り、どこまでも苦しみが続いていくことを知っている人は殆どほとんどいません。

私達肉体細胞はそれを伝えたくて、色々な形でメッセージを送ります。それがいわゆる病という形で、その人の身体に現れていくんです。

しかし、私達のこの思い、私達の喜びの思いを喜びとして受け入れてくれ

る人は、ほんの僅わずかです。

みんな、みんな私達を邪魔者、厄介者やっかいものとして排除しようと、本当に目の敵として、私達を切り取り、切り捨てます。その冷たい心を見てくさいと、私達肉体細胞は伝えているのです。

しかし、すべてが闇の中にあつたところからは、私達肉体細胞のこの波動は、なかなか、なかなか受け入れてもらえませんでした。

だから、私達はあなたに伝えます。

私達肉体細胞の喜びを感じ、そして、ともに歩いていける喜びを感じ伝えてくれたあなたに伝えます。

私達の存在をもっと、もっと伝えてください。

あなたの心から流れる波動に乗せて、私達肉体細胞の思いを伝えてください。

私達肉体細胞は、ただただ喜びを伝えているんです。苦しみを伝えているではありません。

2. 肉体細胞から限らない優しさが流れていることに気付いてください

気付いてくださいと喜びのメッセージを送っています。肉体細胞の思いを感じてみてください、あなたから伝えてください。

3. 自然治癒力をフルに発揮させるためには……

ここまで、自然治癒力から連想する病気とか、病むということについて、「心を見る学び」のことを少し織り交ぜながら書き進めてきました。

確かに、病気になったことで、その人なりに改めて色々、色々考えることもあり、気付いていけることもあるかもしれないけれど、私は、それよりも何よりも、病気という現象から、自分の肉体細胞の存在を、本当に心で感じられるようになっていただきたいという思いから、ページを割いてきました。自分の肉体細胞に心を向ける大切さ、優しさ、そういうものを忘れていませんかと、私は問いかけたかったのです。

そして、もっとそこから、自分の心を開いていきませんか。

心の苦しさ、辛さをただぶちまけるのではなくて、あるいは心の中に押し

殺すのではなくて、もっと素直に、そして前向きに、自分と向き合ってくださいませんか、ということをお伝えしたいのです。

病氣を通して、肉体細胞の思いを受け取っていただきたい。そういう絶好のチャンスに巡り会っていることを感じていただきたいと思います。

そして、それが現実に関心で自分の心で感じる事ができたならば、あなたの心は、「病氣よ、ありがとう、肉体細胞よ、ありがとう」と、自然に、本当に自然に叫ぶでしょう。

やがて、その思いは、あなたの中で、マイナスだと思ってきた病氣が、実はプラスだったという思いに変えていきます。

そして、肉体細胞の流す波動と同じリズムの中で存在していける安らかさを感じながら、もう少し元気になるのもよし、もう少し時間をいただいて本当に穏やかな中で生涯を閉じていくのもよし、と本当に自然に思えるようになるのではないのでしょうか。

今、病床にある人も、元気に活動している人も、どうぞ、肉体細胞に優しい思いを向けて、日々を過ごしていきましよう。

そうしていけば、もともとあった自然治癒力のパワーが増し、その人なりに、それぞれの状態の中で、肉体細胞が活性化していくと、私は思っています。このことをあなたは信じられますか。私は信じています。いいえ、必ずそうなっていくんです。

それでは、肉体細胞に優しい思いを向けるには、どうすればいいのでしょうか。

それには、まず、それぞれの心の中の醜さ、汚さ、愚かさ、凄まじさ、そういうエネルギーを自分の中に確認していくことから始めなければならいでしょう。自分の心の中に、そのようなエネルギーがたくさん詰まっていることを、自ら知っていかねばならないのです。

それが、一言で言うならば、自分の心を見る、自分の出すエネルギーを知

3. 自然治癒力をフルに発揮させるためには……

るということです。

特に、今、身体に、心に、何らかの支障がある人は、肉体細胞が、そのサインを送っているんです。肉体細胞は、あなたがあなた自身を壊し、痛め、傷つけてきたエネルギーを流してきた、また流していることを、あなたに訴えているんです。必死になつて伝えてくれているんです。

それは、あなたに本当のことを知ってほしいからです。あなたの中の本当の優しさと温もりを知ってほしいからです。

肉体細胞の優しさです。その肉体細胞の思いに触れてくださいと、私は語らせていただいています。触れられる、感じられる、そんな優しい、優しいあなたになつてくださいということなんです。

実は、あなたの中にたくさんの苦しくて暗いエネルギーがあることを、真っ直ぐに教えてくれた一番身近な人は、あなたを産んでくださったお母さんでした。

どなたも、自分の母親に使ってきた心は、それは、それはすごい心なんです。自分を産んでくれた母親に対して、日々どんな心を使ってきたか、使っているか、母親との日常生活の中で、その心、その思いを自分の中で見つめていく作業、それを私達は「母の反省」と言っていますが、その「母の反省」こそ、本当はどなたもみんなやるべきことなんです。

ただし、そんなことを言ってみても、今の世の中では殆ど通用しません。何でお母さんの反省なのかと一蹴いっしょされるだけです。

しかし、これは、やっていけば分かります。いかに、自分はすごいエネルギーを流してきたかが心で分かります。そして、母親に使ってきた心、流してきたすごいエネルギーを知っていけばいくほど、自分の愚かさわに心から詫わびていける自分と出会えるのです。それが本来の私達なんだということが分かってきます。

私達は、数え切れない転生の中で、数え切れない肉体をいただいてきまし

た。そのたびに、母のお腹の中で、本当の温もり、本当の優しさに触れてきた私達なんです。そして、私達はお母さんのお腹の中で約束してきました。「今度こそ、今度こそ、本当の自分を知っていきます。知っていく生き方をしていきます。」

しかし、私達は、その約束を、過去すべて反故^{ほど}にしてきました。私達は、自らを裏切ってきました。自分との約束、母との約束をすっかりと忘れてしまふんです。生まれて成長していく時間とともに忘れ去ってしまう私達でした。

そして、母のお腹の中で触れていた波動の世界、優しさ、温もり、喜びの世界を忘れ去って大人になっていった私達に、肉体細胞は、あなたが知っている波動の世界を思い出しなさいと、伝えてくれているというわけです。

だから、病気になってよかったんです。もちろん、病気という現象だけではなくて、間違った方向に暴走していく自分にブレーキをかけて、自分を振り返る時間を用意する、それがどんな形であっても、そういう中に自分

を誘^{いざな}っていくというのは、自分自身に対する限りない優しさなんです。

ただし、これは、繰り返しのようになりますが、自分の心を見る、特に一番は、母親に使ってきた心を見て、自分の流してきた思い、エネルギーのすごさを知っていくことなくしては、到底理解できないことだと思えます。

しかし、それをやっていくうちに、肉體細胞とともにある今を喜ぶとか、肉體細胞の思いに沿って生活をしていくとか、そういうことが自分の中で自然にできてくるんです。

具体的に言えば、暴飲暴食はやめよう。しっかりと食事を摂^とって、しっかりと睡眠時間を取っていいこう。早寝早起きをして生活のリズムを整えよう。しかめっ面をして、怖い顔をして、不満や愚痴や文句ばかり言っている自分とはさようならをしよう。いつも、いつも心の底から笑える自分になりたいなあ……などなどです。

それは、誰に言われなくても、そして、強制されなくても、本当に自然にそうなってくるし、そう思えてくるんです。

あなたはそう思いませんか。

身体が元気になってくれば、心も元気になってくるし、心が前向きになってくれば、身体を本当に厭う優しさが自然に出てきます。

そして、身体も心も元気に前向きになって、本当の私達の仕事に取り掛かりませんか。

あなたが本当にその気になれば、自然治癒力があなたの中でモリモリ働いてくれます。

ああ、やつと、私達といっしょに心を合わせて生きていつてくれるんだなあと、肉体細胞も大喜びするでしょう。

私は、そういう肉体細胞とか、自然治癒力の思いを心に感じられるから、一人でも多くの人が、本当の人生の時間というものを刻んでほしい、そして、自分の中に本当の喜びと温もりがあって、そんな世界が自分の世界だったんだと、心から知ってほしいなあと思っています。

なぜ私達は生まれてきたのか。何をするために生まれてきたのか。

「自分を大切に、命を大切に」とよく言われるが、その自分とはどんな自分なんだろうか。

命を粗末にするのはよくないことだと分かっているが、それでは、本当に私達は自分の命を大切にしているだろうか。もしかしたら、粗末に扱っているのではないだろうか。

そういうことを、いつも心のどこかに留め置いて、日々、時間を刻んでいくことは、大切なことだと思います。

そして、私はなぜ生まれてきたのか。何をするために、ここにこうして存在しているのか。このことに自分の中で答えを引き出せたら、自分を大切にすることがどういうことなのか、どうすれば本当に自分を大切にしていると言えるのか、自ずと分かってくると思うんです。言うまでもなく、そういう人は、命を大切にしていくでしょう。

自分のことは自分が一番よく知っていると一般的に言われていますが、殆^{ほとん}ど

どの人は自分のことを全く知らないと言ってもいいでしょう。

それは、目に見える姿、形を指して、自分だと思っている人が殆どだからです。

住所、氏名、年齢、性別、出身地、身長、体重、職歴、家族構成、趣味、将来の夢と目標などを語る一人の人間を指して、これが私ですというのは余りにも常識的です。

それでは、こんなのはどうでしょうか。

今、語った一人の人間の中に、無数の自分が存在している、無数の自分が、今一つの肉体という形を窓口にしている、こういうのは超常識の世界でしょうか。

私は、超常識だとは思っていません。むしろ、そういうふうに自分をとらえていけるというのは、何とも楽しいことではないでしょうか。

「一つの肉体を通して、様々な映像が入ってくる。様々な音が入ってくる。

様々な触感がある。そして、そのたびに自分の心から色々な思いが飛び出してくる。その思いが、一つの肉体をして、怒らせたり、笑わせたり、泣かせたり、喜ばせたりさせていく。

もしかしたら、自分は操り人形かもしれない。だけど操り人形だったら、一体、誰に操られているのか。ひよっとしたら自分を自分で操っているのか。そう言えば、自分の中に、無数の自分が存在しているとか何とか聞いたことがある。一体どんな自分がいるんだ。どれが本当の自分なんだ。それとも、全部偽物なのか。そんなバカな。だけど、今まで自分だと思ってきた自分が偽物だったら、本当の自分はどこにいるんだ。本当の自分を知っていくにはどうすればいいんだ。」

例えば、こんな思考回路を経ながらも、自分が生まれてきた本当の意味を知っていくことができたなら、いいと思いませんか。

自分の本当の仕事はこれなんだと知って、その仕事に取り組もうとする人

は、徒^{あだ}や疎^{おろそ}かに自分を粗末にしません。自分の命も人の命も粗末にしません。生まれてきたことを本当に喜べるからです。今という時がいかに大切な時であるか、心に感じられるからです。そして、自分自身がそうだから、あの人も、この人も同じなのだと思います。

生まれてきたことを本当に心から喜んでいったとき、その喜びの思いは、さらに、自分の心を見る作業にエネルギーを注いでいこうという思いになります。

自分をこの世に出してくれた母という一人の人間に対して、果たして自分はどんな心を使ってきたか。ここが非常に大きなポイントだと、自分の心は伝えてくるのです。

「産んでくれたことも、育ててくれたことも、さほどのことには思っていないかった。少しは感謝してきたが、自分を産んでくれと願い出た憶えもないし、子供を育てるのは親の義務程度にしか考えたことがない。」

こんな思いの人は案外多いかもしれません。良し悪し云々は抜きにして、まず「母の反省」をお始めになることをお勧めします。

母の温もりを知らない人なんて、この世に存在しないのです。分からない人なんて、本当はこの世に存在しないのです。

ただ、忘れ去っただけです。心の奥底の底に詰め込んだままなんです。そのままの状態で生まれてきて、そして、死んでいった自分を、いいえ、自分達を知っていきましょう。

本当の自分を知りたいと言いながら、本当の自分に徹底抗戦してきた自分達だったことを知っていきましょう。

愚かで哀れで矛盾だらけの自分達だったことに気付いていきましょう。

肉体細胞は、それに惜しみなく協力してくれます。最後の最後まで、あなたの絶対的な協力者だということを信じて、あなたの中の自然治癒力、プラスのエネルギー、そして、それは母の温もりだということを知っていきましょう。

う。

温もりも喜びも自分の中にあるんです。自分を癒^{いや}していく力が自分の中にあるんです。それを一言で言うならば、自然治癒力なんです。

あなたの中にある自然治癒力は、本来の働きをしたいと、その出番を待っています。あなたがあなたの心を見ることによって、その自然治癒力の思いと出会ってください。

そして、自然治癒力は、ただ単にあなたを元気にしていくだけのものではありません。本当のあなた自身を心に蘇^{よみがえ}らせる喜びのエネルギーなんです。

そのところをあなたの心で感じ知っていけるようになっていただければ、嬉しいです。

ただし、それについては、心を見えるという作業が、どうしても必要となっ
てきます。

そうです。自然治癒力の世界を本当に心で分かっているためには、自分の心を見る作業を、丹念にしていくなきゃいけません。

その作業を通して、自分を知っていくほどに、自然治癒力の世界、つまり、本当の喜びのエネルギー、その世界の素晴らしさを感じていけるのです。

私は、私達に心を見ることを教えてくださった田池留吉氏との出会いにより、今、幸せな時間を過ごさせていただいています。

これもひとえに、心を見ることがすべてだと教えてくれた田池留吉氏のお蔭です。

その言葉通り、心を見て、自分の出してきたエネルギーを感じてきた私は、長年の自分の中の疑問、「本当のこととは何か、真実とは何か、真実とはどこにあるのか」といった疑問に対して、ようやく、自分の中で答えを見つけることができたのです。

もちろん、自然治癒力は、喜びのエネルギーであり、私達の肉体細胞はよろか、すべてを生かす喜びのエネルギーであると、私の意識の世界はとらえています。

そのような意識の世界を背景にして、今、ここにこうして肉体を持たせていただいていることを、私は、本当に喜んでいます。

だからこそ、私は、心を見えるということは、すべての人がやっていかなければならないことだと、分かっていただきたいと思っています。

みんなが幸せになるためには、私達みんなが自分の心を見ることを始めなければならぬと、本書を通して強く訴えたいです。

そこで、次の章では、心を見ることを中心に書かせていただくことにします。

心を見ることは、非常に大切なことであると同時に、なかなか難しいことです。

難しいけれどやるしかありません。そして、やっていけば分かります。

大切なことも、これをするために生まれてきたことも、もちろん難しいことも、そして、なぜ難しいのかということも分かってきます。

4. みんな幸せになろう

私達人間は、自分達の本当の姿を知りません。自分達がどんな存在であるのか、知りません。そんな中でどんな人生が展開しても、本当は苦しいだけなのです。それは、たとえ、順風満帆じゅんぷんまんぱんの中にあっても、です。

本当の自分を知らない現実がそこにあるからです。

そもそも、生まれてきて、死んでいくまで、いつも、いつも、喜び幸せなことばかりがあるはずがありません。まさに、人生、山あり、谷ありです。

私達知っている人生とは確かにそう、山あり、谷ありです。

ただし、あなたが心を見るところを、あなたの今ある環境の中で、淡々とやっていけば、自分達には、もう一つの人生があったことを知っていただけます。

もう一つの人生、それこそが私達の本当の人生なんです。

そして、本当の自分を心を感じて生きていることが分かってくれば、山あり、谷ありの人生は、喜び、喜びだったと分かってきます。

ただ、そこへ行き着くまでは、大変です。しかし、やるなら今しかないので。肉体がある今です。

そうです。生きているときに、母の反省を通して、自分の培ってきた闇の世界の凄まじさを心で知っていく作業、すなわち、心を見る作業を進めていく以外に、私達は苦しみの中から自分を解き放つことはできないのです。

「私は苦しくなんかないよ」と平然と言い放っている人も、ひとたび、自分の頭、自分の力で何ともできない現象に遭遇したときには、そうは言っておられないと思います。

自分の頭を信じ、自分の能力を誇ってきた自分なのに、何でこうなるの、何で、何でと戸惑うばかりで、頭の中は真っ白になるだけではないでしょう

か。まさに茫然自失ぼうぜんじしつの状態を体験したとき、自分の非力さを感じるばかりだ
と思います。

「私は、今、苦しくなんかないから大丈夫。十分に満たされているし、幸せだ」ということかもしれませんが、それは、まだ自分の中の苦しみを感じていないだけで、自分の中の苦しみを詰め込んで感じられないだけで、その苦しみの心が、ドドツと音を立てて押し寄せてくる時が必ず、どなたにもやってきます。

それは、「あなたは、本当の自分を忘れ去り、真実の世界を遠くに捨て去ってきたんですよ」という、自分自身に対する促しの時なんです。

これまでに、その警告とも取れる自分に宛てたメッセージは、絶えず、それぞれに心に届いていたはずです。何らかの形で届いていたはずです。

しかし、心を見ることが知らなければ、そういうことにも気付かず
に、ただ目の前の生活を流していくだけの日々を重ねてしまうのです。

しかし、いつまでもそういうわけにはいきません。

誰もが、これは、これは大変だと思う事態に発展していくのです。

平素から自分の心を見ることを習慣づけていないと、大変な状態になったときに、その大変な状態から自分を取り戻していくのに、相当な時間とエネルギーを必要とします。それも、自分の日常を取り戻すことに終始するだけです。

そして、相当な時間とエネルギーを費やして、自分の日常を取り戻しても、その時、心に受けた衝撃は元に戻すことはできません。いつまでも、いつまでも心に残り、折に触れて、それがうずくのです。

形の修復はできても、心の修復はできないのです。それは、心を見るときでしかできません。

一方、心を見ることを知っていても、自分の日常を立て直してから、それからという場合も往々にしてあります。

私達は、どうしても優先順位をつけてしまいます。まず、生活をとか、まず、家族をとか、非常事態になれば、その思いはくつきりと浮かび上がります。

ましてや、心の針を自分の外にばかり向けて、ずっと生活をしてきたものなれば、ますます心は外に向き、形の修復にのみ、エネルギーを出していくに違いありません。

それでは何一つ変わることはないんです。どんなに形が修復できても、依然として苦しい中にある自分達の状態は、何一つ変わらないんです。

そして、せっかく生まれてきたのに、何一つ自分の中を変えることなく、また死んでいかなければなりません。

それは、哀しいことではありませんか。切なくないですか。

死ぬということは、今のその肉体が無くなるということです。

しかし、肉体が無くなったから、私達の存在が無くなってしまおうということではありません。もっとも、大抵の人はそう思っています。

死んで、確かに肉体は無くなりました。しかし、実は、心、エネルギーとして、ずっとそのまま存在しているのが私達なんです。

もつと言えば、心、エネルギーとして存在している私達が、肉体を持っていれば生きているとなって、肉体が無くなれば死んだということになるだけの話です。

だから、心を見ろというのは、自分を見るということなんです。エネルギーとしての自分を、肉体がある間に知っていくということなんです。

肉体がある間に、エネルギーとしての自分を知っていくというのは、肉体が無くなれば、自分を知っていくことが、より一層、困難だからです。なぜ困難なのかは、今、自分のエネルギーを本当に心で感じていけば分かります。それは、例えて言うならば、何十メートルの天津波が一気に押し寄せてくる、怒涛どとうのように覆おほいかぶさってくるようなものです。

そんな凄まじいエネルギーを、私達人間一人ひとりが心に蓄えてきたと言っても言い過ぎではありません。

だから、そのエネルギーを、今、自分の中で確認してくださいということなのです。確認して、本来の自分達に戻っていきましょう。そのために、私

達は生まれてきたんですよ、ということなのです。

ところで、確かに、凄まじいエネルギーを、私達人間一人ひとりが心に蓄えてきたことに違いないけれども、本当は、私達自身は、喜びのエネルギーなんです。

私達の中に本当の喜びと温もりの世界があつたんです。そして、それが本当の私達なんです。

しかし、私達は、みんな、目に見える自分を自分としてしか認識してきませんでした。自分も自分以外の人も、いいえ、この世の中全部を形としてとらえてきました。そして、私達は、その形の世界の中で、自分達の喜びと幸せを見つけていくこうとしてきたのです。

それが、そもそもの間違いでした。

形の世界は、区別、差別の世界です。そんな中で、喜びと幸せを求めようとすることは、最初から無理なことなんです。区別、差別の中で、みんなが

一様に喜びを感じ、幸せを感じていくことなどできるはずがありません。無理なことを無理強いするから、そこには大きくて強い摩擦が起こります。それが、闘いというエネルギーとなって、人間の心の中に根深く根強く蓄積されていったのです。だから、私達人間の歴史は、ずっと闘いの歴史だったと言えるでしょう。

平和な世の中を願っても、真の平和はやってこないことが、形を中心として生きる心では絶対に分かりません。

自分達の心の中にこそ、闘いのエネルギーが息づいているのです。そのことに、みんながそれぞれに気付いていかなければなりません。

ただ単に、戦闘状態にある国と国、地域と地域だけの問題ではありません。私達の心の世界が、そういう形で示されているだけのことです。

そして、それは、自分達の身体、肉体細胞に対して出すエネルギーも、また例外ではありません。

病気になった人、みんながみんなというわけではありませんが、かなり高

い確率で、自分達の心の中の闘いのエネルギーが、自分の肉体細胞を傷つけ、痛め、壊していったと言えらると思います。

そして、その闘いのエネルギーは本当に凄まじいものなんです。

何と闘っているのか。自分とです。自分の中で、偽物の自分が本当の自分に闘いを挑んでいるのです。

もちろん、本当の自分はそれに呼応しません。同調しません。

言ってみれば、偽物が独り相撲をしているようなものです。

このことに、どうか一日でも早く気付いて、そして、自分の中から闘いのエネルギーを弱めていってくださいと、肉体細胞が瀕死ひんしの状態でサインを送っています。

肉体細胞に優しい思いを向けるということは、そんな肉体細胞のサインを素直に受け止めて、肉体細胞の流す波動と同じ波動を自分の中から流していきましよう、ということなのです。

本当の自分を遠くに追いやつて、偽物の自分が幅を利かせている間は、苦しくて苦しくありません。そうだ、そうだと自分に加勢してくれる偽物のパワーを得て、この世の春を満喫しているかのように思えますが、偽物のパワーは所詮偽物なんです。いずれはそれが形となつて出てきます。

それが、病気という現象かもしれないし、その他、色々な現象となつて、私達の目の前に現れてくるのです。

その時に、慌てふためかないで、じっくりとその現象を受け入れられる自分であれば、いいのではないでしょうか。

形を見れば大変なことも、ようやく、ようやく、自分の方向を見定めるチャンスが巡つてきたのです。

すうつと心の針を自分の中に向ける喜びを知っていれば、必ず、自分の心の中に伝わり、響いてくる思いと出会えるのです。

それは誰でもない、紛れもない自分だから、その自分を感じていけばいいのです。温かな柔らかな波動の中で、自分のすべてを預けていける幸せ、安

らぎが広がっていけば、もう幸せではないですか。

あなたは、そんな幸せな自分と出会える、またとないチャンスを自分に用意しているんです。

そのことが、心を見えるということを始めていけば、自分の心で分かってくるということなんです。

心を見ていけば、みんな幸せになります。いいえ、初めから幸せだったことに、気付いていけるのです。

5. $1 + 2 \parallel 3$ の真実の波動の世界

真実の波動の世界とは、 $1 + 2 \parallel 3$ の世界であり、 $1 + 2 \div 3$ 、 $1 + 2 \neq 3$ が決して通用しないのです。

この章では、真実の波動の世界の喜びと厳しさを、ある事例を通して語らせていただきます。

その前に、心を見ることがすべてだと教えてくれた田池留吉氏について、少し紹介しておきます。

田池留吉氏は、一九二六年生まれ、御年八十五歳の老人です。大阪府南河内郡在住のごく普通の老人です。

大阪府立高等学校で数学の教鞭きょうべんをとられて、そして、後、校長職を退かれて以来、心を見るということを主眼にしたセミナーを全国各地で開催してられました。

今現在も、ホームページ (<http://www13.ocn.ne.jp/~utamate/>) を立ち上げておられ、ご高齢にもかかわらず、学びについて本当に誠実に、熱く、メッセージを発信されています。

一人でも多くの人に、「心を見ていってください。見ていきましょう。幸せなご自分と出会ってください」と発信されています。

田池留吉氏は、「私達人間の本当の姿は意識、エネルギーであり、目に見えないものだ」ということを、セミナーを通して語ってられました。

「このことは、あなたの心で分かることです。あなたの頭では絶対に分からないことです。だから、あなたはあなたの心を見ていってください」というところから、長年、私達に懇切丁寧に伝えてくれました。

そして、セミナーでは、ただ、お話を聞くだけではなくて、心を見るとは

こうするんですよという実践の場を設けていただきました。

これまでに、日本各地から、そして、海外からも、本当のことを求めて多くの人達が集ってこられました。

セミナーについてのもっと詳しいことは、拙著『その人、田池留吉』に書かせていただいていますので、そちらのほうを参考にしてみてください。

さて、田池留吉氏という人を、おぼろげながらもイメージしていただけましたでしょうか。

私達は、田池留吉氏のことを、先生、先生と呼ばせていただいています。それは、学びの指導者とか教祖とかいう意味の先生ではなくて、かつて、学校の先生をしてもらったので、その延長でそのように呼ばせていただいているんです。

氏のことを、田池さんと呼ぶ人は少なく、大体の人は、田池先生とか、先生とか言っています。それが氏の呼称となっています。

先生は、小さな頃、母親から「この子は、物言わずのど偏屈だ」とか、「軍師だ」とか言われたそうです。今は、結構おしゃべりもされるし、冗談を言つて周囲の人達を笑わせたりして、好々爺こうこうやという感じの人です。

そして、年齢は、ただ今八十五歳ということですが、頭も身体もまだまだしっかりとされており、本当にお元気に毎日を楽しんでおられるようです。

先生は、陸軍航空士官学校の六十期生ということで、学びのことを語る先生はもちろんですが、それ以外の素顔にも、確かに軍人氣質というか、心意気がここかしこに感じられます。見かけはご老体ですが、武士もののふだと思えます。「私は、男の人に好かれるんや」という先生の言葉が思い出されます。

このような先生と接しながら、私が、さすがだなあと思うところは、学びについて先生がお話をされるときは別として、それ以外の脱線また脱線のお話、冗談っぽいお話の中にも、いつもピリツと真実が織り交ぜられているところだと思います。優しさと厳しさを兼ね備えたところが、何とも言えずいいなあという感想を私は持っています。

さて、先生の人物像云々はこの辺にして、次章では、さらに、先生（田池留吉）という一人の人物を通して感じていく「田池留吉の世界」について、語らせていただきたいと思いますので、その前に少し触れておきます。

「田池留吉の世界」でいうところの田池留吉とは、ただ単に、人名ではありません。そうかと言って、田池留吉という名称を使っているので、先生とは無縁でもありません。

その辺りが、少々ややこしいですが、先生は、語ってきたように、どこにでもいるような普通のおじいちゃんです。

そして、「田池留吉の世界」は、真実の波動の世界と想ってください。真実の世界を、田池留吉という一人の人物を通して伝えていただいたところから、「田池留吉の世界」と言っています。

仮に、この普通のおじいちゃんの名前が、田池留吉でなくて、****だとしたら、「田池留吉の世界」は、「****の世界」となっているでしょう。

「田池留吉の世界」という表現に抵抗がある人は、どうぞ、このことを参考になさってください。

そして、田池留吉という名称に引つかかることはやめて、真実の世界とはどんな世界なのか、そういうところに、もつと思いを集中していつてくだされば嬉しいのです。

それでは、真実の波動の世界である「田池留吉の世界」の喜びと厳しさ、つまり、真実の波動の世界とは、 $1+2 \parallel 3$ の世界であり、 $1+2 \div 3$ 、 $1+2 \neq 3$ が決して通用しないという喜びと厳しさについて、ある事例を通して紹介します。

私自身、先生との出会いから、つまり、学びとの出会いから二十年近くの歳月が流れていることは前にも書きました。その間、たくさんの学びの友との出会いがありました。別れもありました。

実は、私が、自然治癒力をテーマにした本を書かせていただきたいと思った直接の動機は、学びの友との別れの予感があったからです。

この本を書き始める三か月前、私は、セミナーで、とあるホテルに宿泊していました。セミナー最終日の朝、私の携帯電話にその人が、ご自宅から電話を掛けてきました。「これから病院に行ってきます」ということでした。

彼女との短い会話の中で、私は、その時、ああ、これが彼女の声を聞く最後だなど、ふっと思いました。

それから、時折、耳に入ってくる彼女の病状。そして、約三か月後に、彼女は、この世を去りました。

叔母と姪の間柄の私達は、セミナーの時以外にも会う機会がありましたが、そういう時も、学びのことについて、特に話をするということでもありませんでした。

それが、彼女が病気になって以降、特に今年に入ってから、私は、何かしら気になって、彼女の意識の世界に、何度か思いを向けたことがありました。

彼女を思うとき、セミナー会場での一シーンがふつふつと脳裏をかすめ、そしてまた、セミナーの行き帰りの道中のことも心に浮かんでくるのです。昔、昔、私が初めてアメリカで開かれたセミナーに参加したときには、わざわざ空港まで来てくれて、見送ってくれたことが嬉しかったと思い出します。

学びの年月は私よりも長かった彼女です。彼女なりに学びを進めてきたと思います。ただ、残念なことは、最後まで、己の偉い自分を捨て切れずに、本当の自分に素直になれなかった彼女でした。

医師の強い説得にも応じずに、抗がん剤投与をやめると決意した彼女でした。言うならば、近々の死を覚悟の上で学びに向かっていこうと決意したということでしょう。

その決意は見上げたものだということかもしれませんが、私は、少々無謀むぼうだったと思っています。もう少し、もう少し、自分に時間を用意してほしかった

たと思っています。そして、もう少し、ともに学ばせていただきかったというのが私の偽らざる思いです。

そのような私自身の思いがありますが、ただ私は、彼女と意識の世界で勉強させていただいたことに、ありがとうの思いを添えて、それを本書に掲載したと思います。少しだけ、私の我儘^{わがまま}に付き合ってください。

ということで、これより文章を掲載させていただきますが、これらは、私が彼女と直接に会って対話したというものではありません。私の意識の世界と彼女の意識の世界との対話と理解してください。また、文中、田池留吉とあるのは、田池留吉の意識。二五〇年後、二五〇年後の出会いとは、来世のこと。アマテラスとは、本当の自分を捨て去った己一番の苦しい意識。そのように理解してください。

真実の波動の世界の喜びと厳しさ、そして、心を見て、意識の世界を変えていく難しさ、母の反省がいかに大切か、そういうところを読み取っていた

できれば幸いです。

(二〇二一年四月十三日)

****さん、どうでしょうか。今あなたの肉体細胞に思いを向けていますか。肉体細胞への思いの向け方があなたの中で変わってきましたか。

はい、私の肉体細胞に思いを向けてみます。

心の向け方を、はい、心の中に尋ねます。

私の肉体細胞に思いを向けると、私は凄まじいエネルギーを心に感じながらも、どこか肉体細胞にありがとう、ごめんね、ありがとう、その思いが広がっています。

私の肉体細胞は耐えに耐えてきてくれました。

心の中の凄まじいエネルギーをどんどん見ていってくださいと、優しいあなたに気付いていってくださいと、そんなことを私にメッセージとして送ってくれています。

私は肉体細胞を思うとき、自分の中の本当にすごいエネルギーを感じざるを得ません。

間違ってきた道を歩いてきた。お母さんにすごいエネルギーを出してきた。自分の心を本当に見つめ直していかなければならないことを、しみじみ心に感じます。

肉体細胞があればこそ、私は今、自分の心を語ることができるんです。本当に愚かでした。肉体細胞はいつも私に伝えてくれました。

***さん、あなたの肉体細胞とともにお母さん呼びましょう。

そして、田池留吉に心を向けてみましょう。肉体細胞とともに、ですよ。はい、どうぞ、ともに心を向けてみましょう。

***さん、どうぞ、心からあなたの思いを吐き出していつてください。
あなたはまだまだ自分の中に思いを詰め込んでいます。

肉体細胞が心を開きなさいと、あなたに伝えてくれているのを感じますか。
田池留吉もあなたに伝えます。どうぞ、心を広げて、私達の思いを受けていつてください。

あなたのこれからの転生の中で、私達の思いを受けていくことはとても難しいです。

今、肉体を持っているときに、私達の思いを心に、どうぞ、受けていつてください。

そして、その思いを二五〇年後にしっかりと繋いでいつてください。たくさん、たくさん、たくさん、あなたのエネルギーを心に蓄え、あなたはこれから転生してまいります。

二五〇年後の出会いをしつかりと心に感じながら、あなた自身をしつかり

と見つめていってください。心の中をしつかりと見つめていくんです。

肉体細胞は待っています。あなたが心を開いてくれるのを肉体細胞は待っています。待ち続けています。肉体細胞が、あなたを苦しめているのではありません。

肉体細胞は、ただただ優しい思いを、愛を流している存在です。あなたは心で感じていると思います。

どうぞ、その肉体細胞の思いに応えてください。

あなたの中の本当のあなたに伝えていってください。

(二〇二一年四月十四日)

***さん、「間違ってきた道を歩いてきた。お母さんにすごいエネルギーを出してきた」とあなたは語りました。もう少し具体的にあなたの中を語ってみてください。

はい、私は***の意識です。すべてを蹴散らしてきました。

本当にすべてを蹴散らしてきた。アマテラスそのものでした。私はアマテラスのままに生き続けてきた意識です。

すごいエネルギーを周りに出してきました。自分の肉体細胞にはもちろん、周りの人達にこの思いを流してきました。

我こそ一番。我に従え。私はこんなにすごいんだ。こんなにすごい私をどうしてお前らは下に見るんだ。私はそんな思いでずっと存在してきました。今世だけではありません。過去より、ずっと、ずっと心の中にこの思いを広げてきました。

田池留吉など私の中では小さな、小さな存在でした。

私はこの学びに集ったときから、チャネラーという存在を心に広げてきました。チャネラーと呼ばれる人達に思いを向けてきました。それはすべて私の心だったからです。私の姿だったからです。

私は、心の中に過去より神として崇め奉られてきた思いがしっかりとありました。そして、この学びに集い、チャネラーと自他ともに認められている人達を上に見ながら、しかし、私はその人達をまた下にも見てきたんです。

はい、その通りです。私は本当に何を学んできたのかと、自分の学びの時間を本当に無駄にしてきたと、今、私は、この時期になつて感じています。しかし、すべては私が選んできたことです。私の心の中にその思いが返ってきました。

思いは形となつて、今、表れています。私の肉体細胞を通して私のすごいエネルギーを見てくさいと、自分に示しています。

肉体細胞を思つたとき、ありがとう、ごめんなさいという思いが出てくると私は語りましたが、それもまだまだほんの小さな、小さなものではないことを、私は確認しています。

自分の中を見ていけば見ていくほど、どんなにすごいエネルギーを蓄えてきたか、すべてを足蹴にしてきたと、この心の中から上がってきます。

***さん、あなたはこれから何をしていけばいいのか分かっていきますね。あなたのすることはただ一つですよ。

自分の心をゼロ歳に戻し、その自分の中にあつた素直な思い、本当に素直な思いで自分を見つめ、お母さんに抱かれていた安らぎの中に自分を帰していくこと、その瞑想を続けていくこと、あなたができることはそれだけです。それがあなたには分かっていると思います。

どうぞ、ゼロ歳のときの瞑想、そして、田池留吉を本当に心から呼ぶ瞑想を続けていきましょう。

身体の不調から、集中して瞑想をできかねるときもあるでしょう。

しかし、それでもあなたがしていくことは瞑想です。

どんなに厳しい状況であっても、あなたの中は真実の自分に出会いたい、本当に今世のこの時を待ち続けていたと訴えていると思います。

どうぞ、そのあなたの思いに、瞑想を通して、少しでも触れていってください。

さい。

母の意識は今もあなたの中で、あなたを信じて待ち続けています。

田池留吉の思いはその母の思いなんです。

あなたが下に見てきた田池留吉の世界。

どんなにあなたが見下げ続けてきたとしても、あなたを決して見捨てることなく、見放すことなく、信じて、信じて待ち続けてくれる意識の世界に、あなたの心を向けていつてください。

あなたの心の中にあるアマテラスを呼んでみてください。

アマテラス。アマテラス。我はアマテラスなり。我はアマテラスなり。この心の中を牛耳^{ぎゅうじ}ってきたアマテラスの意識。

私は今、心を語りなさいと言われました。心の中に苦しみを抱えたままです。このままでは私はダメなんです。だから、私は今生生まれてきました。

アマテラスは本当の自分に目覺めたいのです。

この今の私の肉体を通して、アマテラスに思いを伝えたかった。アマテラスの心はとても苦しかったです。それを私は伝えたかった。私に伝えたかった。

今世この時、田池留吉が肉という形を持つこの時こそ、我らの唯一の時間だった。

救いを求めてきた。私は私を救いたかった。その思いを私に伝え、私は田池留吉とともに歩いていきたいと思いつつ、この肉体を動かしてまいりました。アマテラスのエネルギーの苦しみを心に訴え続けてきました。

「お前はなかなか受け入れてくれなかった。アマテラスを邪険にしてきた。冷たい、冷たい心で私達を邪険にしてきた。そのエネルギーがとても苦しいと、またお前に伝えた。

しかし、お前は、なお我らを邪険にしてきた。あれほど、アマテラスを崇拜して、己を大きくのさばらせてきたのに、今度は我らを邪険にした。冷たく、

冷たく扱ってきた」、その思いがとても苦しいと今、訴えています。

「訴えている我らの思いを受けてください。心を広げて受けてください。優しい思いで受けていってください。

我らは訴えます。温かい温もりの中に帰りたい。アマテラスの心を受けていってください。」

(二〇二一年五月六日)

****さん、瞑想もままならない肉体的な苦痛、はい、あなたの苦しさが伝わってきます。しかし、聞いてください。私の思いを聞いてください。

はい、あなたの今のその変わり果てた身体、皮膚組織、今、目に見えているあなたの肉体細胞、それをしっかりとあなたの目で見つめてください。

ご覧になってください。そこから何を感じますか。

私は、肉体細胞の叫びを心に感じます。

あなたは、肉体細胞に本当に冷たい思いしか流していません。あなたの中のエネルギーを、肉体細胞は必死になって受けてくれています。

あなたは、そのことに対して、どれだけ懺悔の思いが出てきますか。

そして、その懺悔が喜びへとなっていますか。

私が、もしあなたの立場だったら、私は私のその肉体細胞の思いを自分の心で感じたとき、私の心の中から、ありがとうの思いと懺悔の思いが溢れ出てくるでしょう。

「ありがとう、ありがとう、本当にありがとう。私を支えてくれてありがとう。私に伝えてくれてありがとう。あなた方の思いを心に感じます。嬉しいです。ありがとう。私は、このように存在させていただいています。間違ってきました。間違ったエネルギーをこの宇宙に、ずっと、ずっと流し続けてきました。母を見下し、母を殺し、母を本当に八つ裂きにしてきた。そして、それが自分のエネルギーでした。それが自分に返ってきました。」

そのような懺悔^{ざんげ}の思いが、心からどんどん湧き出てきて、そして、それが本当に、今、心で感じられることがただ嬉しく、喜びとなって、私の中に溢れて出てくるでしょう。私はそう思うんです。

あなたは、どうでしょうか。あなたは、今、本当に身体的に苦しい場面にあります。しかし、自分の心を見てください。あなたは、その肉ではありません。あなたは、意識として、永遠に存在しています。

あなたはエネルギーなんです。****という肉体は、どんなになっても、あなたという存在は決して消えることはありません。

そのあなたを、心で、もつと、もつと感じていつってください。

ありがとう、ありがとう、あなたがあなたに伝えていつってください。

(二〇二一年五月二十八日 その二)

抗がん剤の投与をやめると決めたのは、****さん本人です。

ただ、もし、あの時、抗がん剤の投与を続けながら、心を見ることに専念しておられたら、今とはまた違った結果になっているのではないでしょうか。もちろん、結果論云々うんぬんかもしれませんが、抗がん剤の投与をやめたという選択が……ということが私の中にあることは否定しません。

完全な手術ではなかったと聞いています。そんな状態の中で、病院側から強く勧められたにも関わらずに、抗がん剤の投与をやめたのは、あくまでも本人です。そこまで決意したならば、もっと、集中的にこの学びを進めていったと思いますが、その辺が私にはどうしても不可解なんです。

田池留吉、何かアドバイスをお願いします。

もちろん、抗がん剤の投与を続ける、やめるは、本人が決めていくことです。その結果、どういうふうになっていくか、それもまた本人のものです。自己選択、自己責任、まさにその通りです。

しかし、***さんの場合は、もっと以前の問題なんです。

あの人は、ご自分の心を見ていない。自分の心を見てこなかったんです。

田池留吉に歯向かうエネルギー、田池留吉を見下すエネルギー、そのエネルギーを心底から自分の中で見つめてこなかった。

その結果が、今の状態をまざまざと現している。私は、そうに伝えます。抗がん剤の投与云々^{うんぬん}ではなく、仮に投与を続けていても、遅かれ早かれ、肉体細胞が今のような状態の症状を現すでしょう。

それほどの彼女の意識の世界の凄まじさです。それを彼女自身は、しっかりと見つめてこなかったということです。

学びの時間は長いです。自分なりに心を見て、瞑想をしてということとは、その他の人達も同じですが、そういうことは、おそらく、彼女は努力されてきたでしょう。

しかし、私の言うところの心を見る、自分の凄まじいエネルギーを自分の中に知っていくという、この学びについての本当の道筋というか、そういうものは、彼女はまだ自分の中で見つけていません。

しかし、今、どのような状態であっても、本当に今という時、大きな、大きなチャンスを自分自身に用意している、それは間違いないことです。おそらく、あなたは*****さんの意識に向けて、色々とメッセージを送っておられると思います。心に向けて、あなたの中から出てくる思いを彼女の意識の世界に伝えていると思います。

しかし、そのことを、あの人の意識の世界が全面的に受けているか、それは甚だ難しいんです。
はなは

そうです。その根底には、己、己、己があるからです。己一番の世界があるからです。それをアマテラスと表現しました。そのアマテラスのエネルギーが、自分の本当の心を遮さかっている。それすらも、まだ気付いておられない、そのような状態なんです。

そうかといって、これは、何も*****さんお一人のことではありません。そういう人達は、この学びに集まっている人達の中にも、本当にまだまだ多いです。

だから、***さんのように、はつきりと形に表れてくることが、大きな愛であることを、本当に彼女自身が心のどこかでほんの少しでも気付いてくれたなら、状態は改善します。しかし、それ以外は難しいです。

形の上からどのようなことを施しても、心、意識の世界を変えない限り、絶対に難しいということを私はお伝えしたいです。

***さん、今、田池留吉からのメッセージをあなたに伝えました。

私は、あなたを思うとき、どうしても残念でなりません。

どうしてこの一番大切な時に、自分の心を真向かいから、真正面からとらえることができないのか。あなたの身体の状態が大変で苦しいということは分かっています。しかし、私ならこうする、ああするという思いが出てくるんです。

どんなに大変で苦しくても、あなたはまだ語ることができます。普通に喋れるではないですか。その語ることを、何かの方法でしてほしい。録音して

もいい、書き留めてもいい。どうして、その自分の中の思いを、もっと素直に見つめていけないのかなあと、私はつい思ってしまうんです。

しかし、それもあなたの選択です。私はそれで自分の心を苦しめているのではありません。

ただ私は、あなたとの繋がりからかもしれない。やはり、あなたに何か一つでも気付いていただきたい、その思いがとても強いです。

このままでは、自分の心を真つ暗闇の中に沈めたままでは、あまりにも、自分に申し訳ないと思いませんか。

あなたも、私と同じです。どんなに、この今の時を待ち望んできたか。その肉体をどんな思いで母に願ひ出たか。その思いにほんの少しでも、本当に心の底から触れていただきたいというのが、私の思いです。

あなたは、多分、私を姪として見ておられますね。だから、私の伝えるメッセージだとか、私の思いは、ああ、そうでしたと全面的に受けていくことができないのではないかと思います。

しかし、私は伝えます。

私は田池留吉との出会いを、本当に、心の底から待ち望んできました。

歯向かうエネルギーをしつかりと見つめてきました。田池留吉に歯向かうエネルギー、殺してやりたい、本当に殺してやりたい思いを、自分の中でしつかりと見つめてきました。

その思いがあったからこそ、喜びの私と出会えたということを、私は、本当にこの心で知ったのです。

私のこの心から出る思い、その波動、エネルギーを、あなたの中に、少し、ほんの少しでも伝えていきたいです。

どうぞ、心を見てください。そして、自分に優しくなってください。肉体細胞に優しくなってください。

私が言えるのはそれだけです。

最後にもう一つ、あなたはご自分をどのように思っていますか。

意識、エネルギー、永遠に存在するものだと思いますか。どうぞ、今、その心で答えてみてください。

私は***の意識です。田池留吉を足蹴にした。見捨ててきた。本当に、本当に、その思いを心に抱えています。しかし、私の中から、その思いがまだまだ、まだまだしっかりと出ることができない。私が私を抑えています。

私はこのエネルギーを心の中にしっかりと持ったまま、今、苦しみの中にあります。肉体細胞に優しくありません。肉体細胞は疎ましいです。

私の中の苦しいエネルギーが、肉体細胞を殺しかかっています。

私は私を殺しにかかっている。田池留吉、くそ食らえの思いを心の中に留め、私は私を殺しにかかっている。

あなたは尋ねました、私の存在を、あなたはどのように思っているかと。

私は肉そのもの。私は肉そのもの。私はエネルギーなんて思えない。永遠に存在するなんて思えない。この肉体、この肉体が私、これが私。この病ん

で苦しみの中にある肉体が私。この肉体が私、私、私。この肉体が疎ましい。^{うと}
肉体が疎ましい。^{うと}

(二〇二一年五月二十八日 その二)

私は、***さんの意識と語りました。私は自分を誇ることはないけれど、私のこの学びに対する思い、自分に対する思いと、***さんのそれとは格段の違いがあることを感じます。

私は肉が私だと思っていません。私は自分の中をしつかりと見つめるために、肉体をいただいたことを確認しています。

母から肉体をいただいた私に感謝しています。

私はどんな肉体でもよかった。しかし、母は私に最適な肉体を下さった。この学びをするのに本当に最適な肉体を下さった。今、健康な身体があります。自分の肉体細胞に、ただただありがたうの思いが広がっていきます。

私は自分を誇ることはないけれど、本当にここまでよくやってこれたと自分を褒めてやりたいです。その思いが私の中に広がっていきます。

さらに心を見つめていきなさいと、私の肉体細胞は応えてきます。

肉体細胞に支えられて私は存在しています。

田池留吉の世界を心に本当に確立したかった私の思いが、この肉体細胞を選びました。私の環境を選びました。

(二〇一二年八月一日)

****さんの肉体細胞、語ってください。

はい、私は彼女の肉体細胞です。私達は必死に今、伝えています。彼女に伝えています。彼女の意識の世界に伝えています。

「ともに学んでいきましょう」と、私達の喜びを伝えています。「あなたは

愛なんですよ。優しさと温もりの中にあったあなたなんですよ、私達肉体細胞はこのように伝えています。

彼女の思いは、なかなか私達の思いと和合しません。

しかし、それもまた喜びなんです。私達にすればそれもまた喜びなんです。今、田池留吉の波動を心を感じていただくというメッセージが来ます。肉体細胞よ、語りなさいという思いの中に、そのエネルギーを感じます。はい、私達肉体細胞は、彼女に、ますます伝えてまいります。

はい、彼女に伝えていくことが私達の仕事です。彼女の意識の世界へ、喜びをほんの少しでも伝えていきたい。

「あなたの中に喜びがあつたんですよ。温もりがあつたんですよ。母の温もりの中へ帰っていくあなたなんですよ。」

ほんの少しでも彼女に伝えて、私達の役目を終えていきたいと思えます。

私達肉体細胞の思いを、彼女が本当に心から受け取ってくださいるならば、そこにいわゆる奇跡が起こります。

そして、彼女の反省の時間が、当初考えていたよりも長く持てると思います。

私達は彼女に少しでも本当のことを知っていただきたい、ただただその思いです。

この思いを彼女に伝えています。

どうぞ、どうぞ、心を開いて私達の思いを聞いてください。肉体細胞の思いでした。

(二〇二一年八月二日)

****さん、あなたは肉体細胞の思いを聞いていますか。肉体細胞に思いを向けていますか。田池留吉はどうですか。

あなたの身体の調子、一進一退というところだと思いますが、私は、あなたの意識の世界へ伝え続けます。

あなたの中の温もりと喜び、そして、本当に命懸けで母のもとに帰ろうとして肉をいただいたあなたの思い、その思いをあなたの中で少し、ほんの少しでも信じて、信じて、信じていける喜びを、ただただ語っていきたいと思います。どうぞ、これから私とともに思いを向けていってください。

肉体細胞に思いを向けていってください。

肉体細胞の思いを感じていけば、あなたの中から本当に私は肉体細胞に冷たかった、母にどれだけ凄まじいエネルギーを流してきたか、あなたの心は感じていくでしょう。

心の中で、田池留吉、お母さんを素直に呼んでいけるあなたになってください。

何も要りません。何も要らなかった。ただただ素直に呼んでいけるあなたであれば、それでいいんです。

肉体細胞の思いを、どうぞ、心に広げていってください。

肉体細胞は、どんどんあなたに語っていますよ。

優しい、優しい思いを語っています。あなたは、自分の肉体細胞が壊れていくことを知っています。

しかし、その壊れていく肉体細胞ですら、あなたの中にある優しさ、温もりをしっかりと感じていただきたいと語っているんです。

その肉体細胞の思いを心で信じられるあなたに、本当に蘇よみがえっていただきたと思います。

***さん、それではまずお母さんに使ってきた心を、もう一度、振り返ってみましょう。

はい、ああ、苦しくて、苦しくて、私の目の前にいる母が苦しくて、苦しくて、どうしようもなかったです。母の言うことなすこと、すべて、すべて、私は打ち消してきました。心の中で打ち消してきました。

しかし、心と裏腹に形は整えてきました。その私がとても苦しかったです。

くそつたれ、くそつたれ、くそつたれの思いを広げてきました。

母の触るものなど、私は本当に汚く感じました。母の思いを心に感じることを私はしてきませんでした。私の中に母のもとに帰りたい、帰りたい、帰ろう、帰ろうとする思いがあることが信じられなかったです。

私が、あんな母親にどうして「ありがとう」が言えるものか。そんな思いで、ずっと、ずっと生活をともにしてきたんです。

この学びに集って母の反省を始めました。母の思いを感じる瞑想を私なりにしてきたつもりです。

しかし、私の中に肉の母親がドーンとあつて、私は母の本当の思い、安らかな、安らかな、温かな、温かな、どこまでも私を許してくれている母の思いを感じることはできなかった。

肉の母が私の目の前にあつたんです。肉の母を見ているうちに、むらむらと心から上ってくるのは、己の、偉い偉い思いです。

どうしても、どうしても、母を許せなかった私の過去からの思いです。

苦しくて、苦しくてなりませんでした。ただただ苦しかったです。

ああ、私は本当に、苦しい、苦しい毎日を送ってきました。

お母ちゃん、お母ちゃんと、はい、私は心の中に呼び、母に向ける瞑想をしてきたつもりです。

しかし、私の心の中にこんなに汚くて、母を抹殺してきたどうしようもない私があります。

ああ、私は、その私を、今語りなさいと心を向けられました。

私の中に、まだまだこんな凄まじいエネルギーが残っています。

私の肉体細胞は病んでしまっている。こんな状態の中なのに、母を思うことがまだまだ充分にできないのは、この心をしっかりと見つめてこなかったからです。

それが、やっと、やっと最近です。こういう状態になって、お母さんに思いを向けたとき、お母さんにありがとうと、私は少し、ほんの少し、心に広げられるようになりました。

しかし、以前の私は、今、語ったような私でした。いいえ、もっとすごいエネルギーを流してきました。

母を目茶目茶にやつつけてきた私の思いがあります。凄まじいエネルギーで、母と生活をともにしてきた日々を、私は私の中で、今、振り返っています。

****さん、あなたはお母さんが亡くなったとき、お母さんの持ち物の殆ど^{ほとんど}を処分したい、みんな綺麗に処分してしまいたい、そんな思いでしたね。そういう話を聞きました。

その思いは、今、あなたが語った肉の母に対する思いの表れでしょうか。あなたは、あなたのお母さんを、そんなに嫌ってきたのでしょうか。そのところを語ってみてください。

私は母の持ち物など、一切要らなかった。私の周りからすべてを消し去りたかった。母の肉体とともに、母の持っているものに、触ってきたもの、触れ

たもの、ああ、見たくない、見たくない、その思いが心の中にありました。私の中に、その思いがむくむくと湧き起こってくるんです。

私の母親は、色々な物を持っていました。ある意味では贅沢ぜいたくでした。たくさんさんの物を持っていた。まだ新品に近い物まで、私は、すべて処分したかったです。

私の姉達に引き取っていただくか、それともゴミとして処分するかして、私は私の周りから消し去りたかった。ああ、それは、母に対する思いを、私の中から消し去りたかったんですね。

私は、過去、この母と何度も、何度も、転生を繰り返してきました。色々な役柄で、苦しい、苦しい中を生き抜いてきた過去を思います。

すべてはアマテラスの中です。血みどろになつて闘い抜いてきた相手です。それが、今世、田池留吉の学びに集うことを約束し、二人とも学びに集えしました。学びに集ったけれども、私達はアマテラスのエネルギーの中で、過去と同じ闘いを繰り広げてきました。

互いに息の根を止めるほどのエネルギーを流し続けてきました。苦しかったです。

私達のどちらかが、生まれてきたことを本当に心の底から喜び、自分の中の温もりで、その狂ってきた、間違ってきたエネルギーを包んでいく作業が、少しでも捗^{はかど}っていれば、私達は、肉がある間に、もう少し、互いが互いに優しさを伝え合えたと思います。

本当の意味で、私は母に優しく接することができただろうなあと、今、思います。

私は母に対して、とても厳しいエネルギーを流してきました。

母の思いを踏みつけてやりたかった。すべてをズタズタにしてやりたかった。心から憎んできました。

こんな思いを、私はアマテラスの中で、押し殺し、押し隠し、表面を整えてきただけなんです。

苦しかったです。

今、お母さんを思うとき、今、私はお母さんを思うとき、すごいエネルギーを流してきたなあ、ただただその思いを心感じます。

私の肉体細胞は、それに応えてくれていたんですね。受けてくれていたんですね。

***さん、ともに、田池留吉、お母さんを思いましょう。あなたの肉体細胞とともに、心に向けてみてください。

肉体細胞から喜びが伝わってきます。私にありがとうを伝えてくれます。

こんな私が肉体細胞に支えられてきました。今も支えられています。身体を切り刻んできました。私は私を切り刻んできました。

肉体細胞よ、申し訳ありません。お母さん、お母さん、お母さん、ありがとうございます。

***さん、肉体はベッドに横たわっているだけかもしれません。

しかし、あなたの心は、田池留吉、お母さんを呼べるんですよ。心をしつかりと、田池留吉、お母さんに向け、あなたの肉体細胞を思う時間を過ごしていってください。

あなたの中の優しさ、温もりを、ずっとずっと信じて、信じて待ち続けてくれていたあなた自身に心を向けていきましよう。

今あることを、ただただ喜んでいってください。

私は、あなたの意識の世界を語らせていただいています。

あなたの中の苦しさ、暗さ、厳しい波動も、すべては喜び、温もりの中へ帰れることを、私は信じています。

私も同じです。私は私の中に心に向け、優しく温かな私と出会っています。私の思いを感じていってください。田池留吉の思いを感じていってください。

私達は意識、エネルギー。消えることのない存在です。

今、あなたと語っています。あなたを感じています。

ベッドに横たわっているあなたの意識の世界へ語りかけています。私はあなたに語りかけています。あなたを思い瞑想をします。私を思い瞑想をします。ともに帰ろうと伝えます。

それが私の喜びです。私達は温もりの中へ帰るんですよ。はい、あなたにそう伝えます。

(二〇二一年八月四日)

***さん、田池留吉の喜びのエネルギーは、あなたの中に届いています。もう不思議なことが起こっていますね。

あなたの肉体生命は、まだその時間をいただいています。あなたの心の中に、田池留吉の思いを感じていただくように、時間が用意されています。

どうぞ、ご自分の肉体細胞を思い、田池留吉を思い、お母さんを思う、そんな時間を過ごしてください。

心の中に語りかけています。私はあなたの意識の世界に思いを向け、あなたとともに、田池留吉、お母さんの世界に心を向けていこう。いついかなる時も、そんなあなたであってほしい。そう私は呼びかけています。

私はなぜこんなに、あなたとともに学んでいきたいのでしょうか。

あなたがそのような状態になって、私の心の中から出てくる思いは、あなたとともに学んでいこう、学んでいきたいという思いでした。

しかし、あなたはなかなか心を語ってくれませんでした。心を向けてくれませんでした。私が姪という肉적인立場であるが故に、あなたは、肉のお母さんに対してもその枠を超えることができないように、私にもまた、叔母、姪の肉の関係のところを超えて、私のほうに心を向けて語っていただけることが容易ではありません。

それでも、私はあなたに伝えます。

私は、田池留吉の学びに集って、約二十年の年月が流れています。

あなたとともにセミナー会場を往復した記憶もあります。私が初めて、アメリカのセミナーに参加した際には、空港まで見送りに来てくれました。あなたは、セミナー期間中、よく食べ物を受け付けずに苦しんでいましたね。現象の時間に目をどうかして、セミナーの帰途、薬局に立ち寄って眼帯を購入したのも思い出されます。

私は、あなたのお母さん、私からすればおばあちゃんですが、そのおばあちゃんに対しても、色々思いを向けて学ばせていただきました。

あなたの夫である****さんについても、私は思いを語らせていただきました。

しかし、私はやはり、セミナー会場であなたと学んできたことが、心の奥深くに残っているんです。あなたと私の繋がり、アマテラスの世界での繋がりがありません。しかし、それはどうでもいいことです。

ただ、あなたの中のアマテラスの勢力はまだまだ強くて、田池留吉の世界

をしつかりと自分の中に広げていません。アマテラスの冷たさ、アマテラスの冷酷さ、アマテラスの厳しさが、あなたの中にしつかりと残っています。

私は違います。

私は、私の中のアマテラスを喜びで温もりで受け入れてきました。

アマテラスは、私の中で大きな喜びへと変わっていききました。その私の中のアマテラスが伝えているんです。

どうぞ、しつかりと心に向けて、アマテラスの思いを喜びで包んでいってください。あなたの肉体細胞とともに、アマテラスの思いをしつかりと見つめてくださいと、私はあなたの意識の世界へ語りかけています。

これからの時間、私は瞑想をする中で、心が広がり、喜びを感じていったとき、ふつとあなたを思います。

その時、どうぞ、ともに田池留吉へ心に向けてください。私はあなたに呼びかけています。はい、あなたに呼びかけています。

(二〇二一年八月五日)

ともに、ともに学んでまいりましょう。私はあなたに心を向けて、語りたいと思います。私の思いを語りたいと思います。

どうぞ、私の思いを感じていつてください。

私は、田池留吉の世界を心に広げています。田池留吉の世界は私の世界だと、本当に心で感じています。

だから、私の肉を思わずに、ただただともに学んでいける学びの友として、私を見てください。

そして、お母さんと素直に呼んでください。お母さんと素直に呼んで、あなたの中をしつかりと感じていつてください。

時間はまだあります。あなたがお母さんと、本当に素直に、素直に呼んでいた頃のあなたを思い出して、そして、そのあなたとともに、田池留吉、お

母さんを思う時間を持つてください。

何も要りません。ただ、田池留吉、お母さんを、ただただ素直に呼んでいけばいいんです。

かつて、セミナー会場の現象の時間に、あなたを足で蹴飛ばした私でした。あれが私のあなたへのたった一つのメッセージだったように思います。「互いの中のアマテラスをしつかりと見つめていこう」。私は、あなたに、そして、私に、この肉体を使ってそんなサインを送っていたのだと思います。

しかし、あれから、私達の道は大きく別れていきました。

私は、あなたの中のアマテラスの勢力が依然として強いことを、真正面から伝えたいのです。どうぞ、本当の優しさで温もりをあなたの中のアマテラスにお伝えくださいと、私は心の底からそうに思っています。

しかし、残念ながら、あなたにはそれを充分にやっていける時間は残されていないかもしれません。いいえ、本当はこれまでに十二分にあったのです。

それをあなたは活用できなかったのが現実です。

しかし、まだ時間があります。心から、田池留吉、お母さんを、本当に心から呼んでいってください。私は、あなたに語りかけていきます。それが私の喜びだからです。

「私は温もり、あなたも温もり。私は喜び、あなたも喜び。」

そう私はあなたに伝え続けます。

(二〇二一年八月六日)

私は、どんな瞑想をして学びの友の***さんに伝えていきたいです。心からその思いが突き上がってきます。

夫がその命を捨てるとき、私は何も伝えることができませんでした。

父がその肉を置いていくとき、私は、当時、自分の中に感じていた喜び、温もりの世界を、その当時の段階で伝えました。そして、今もなお、ふっと

思いを向けています。

私は、今、今の私が自分の心で感じているもの、波動を伝えていきたいと思う友の***さんがいます。私は、その友の意識の世界に語りかけるところをやっています。

もちろん、瞑想をすれば、その何十倍も、何百倍も、いいえ、数限りない宇宙達に思いを向けていくことができます。

私の心の中に感じ響いてくる思いがあります。「ただただともに、ともに存在している喜びと温もりとともに、私は本当の波動を伝えていきたい、伝えていこう」。そんな思いが私の中から自然に出てきます。

私は、真実の世界に触れ、真実の波動の中にある自分を感じ、そんな自分の世界をどんどん広げていける喜び、幸せを、今、肉がある間はもちろん、肉がなくても感じていける喜びの中にあります。

これは、本当に自分の計画、予定とはいえ、こうして、現実にも母から肉体をいただき、学びに集わせていただき、滞りなく学びを進めさせていただ

てきたからです。

思うだけで通じる世界が意識、波動の世界です。本当の喜びと温もりの中で、***さんに意識を向けながら語っていきます。

「お母さん、ありがとう。お母ちゃん、ありがとう。心からそう思えたならば、こんな幸せなことはないね。」

***さんに、そう語りかけています。

どうぞ、田池留吉とともに心を向けてまいりましょう。

心から伝えます。あなたは温もりです。優しい、優しいあなたが本当のあなたです。

これは、何度も、何度も、あなたが耳にしてきた言葉です。

しかし、私は、それを今、あなたの意識の世界へ、波動として伝えています。私の思いを伝えています。心から、心から感じていってください。

肉体細胞は心で感じています。肉体細胞は感じてくれています。

だから、あなたを支えています。肉体細胞は、たくさんの凄まじいエネルギーを流してきたあなたを、ずっと支えてくれていました。

そして、ただただ喜び、温もりを流してくれました。

私はその思いを心感じます。だから、肉体細胞よ、ありがとう、ありがとう、ありがとうという思いが心から湧き出てきます。

この思いをあなたも感じていただきたい。

肉体細胞は応えています。

「ああ、私達は喜びです。喜びで、喜びで、この思いを伝えています。

私達は愛を流しています。気付きを促しています。私達は田池留吉です。」

ああ、私にはそのように伝わってきます。

肉体細胞に、どうぞ、あなたの思いを向けてみてください。そして、心から、優しい、優しい肉体細胞の思いを感じてみてください。

(二〇一一年八月七日)

***さん、私はあなたの肉体細胞の思いを心に感じています。

喜びと温もりを、最後の最後まで、最後の最後まで、伝え続けてくれます。

私は、今、肉体細胞の思いを心に感じています。

お母ちゃん、お母ちゃん、そう、あなたの心が呼んでいる。

お母ちゃん、お母ちゃん、お母ちゃん、ありがとう。ああ、ごめんなさい。

心からあなたの思いを感じることができずに、私はずうつとずうつと、ああ、この学びを続けても、ずうつとずうつと、あなたに心を開くことなく、ずうつと、ずうつとききました。

今、お母ちゃんの思いを心に感じています。

田池留吉、あなたの思いを感じています。

心が静かに広がっていきます。私は、田池留吉に心に向けることなく、いつも、いつも田池留吉に歯向かうエネルギーを流し続けてきました。

しかし、そんな私に、優しい、ただただ優しい、限りなく優しい思いを流し続けてくれた田池留吉、お母さんの世界です。

私は、今、その世界を心を感じています。****の意識の世界は、とても穏やかです。肉の田池留吉をふつと思います。

私は幸せです。ありがとう。お母ちゃん、ありがとう。私は心の中に、お母ちゃんと思い、これからの時間を過ごしていきます。肉体細胞に思いを向けていきます。

(二〇一二年八月八日 その一)

心の中に伝えます。あなたの肉体はもうありません。あなたは意識の世界を心に広げています。今、私はあなたを感じています。

本当に苦しい中であつたあなたを語ります。

肉体がないけれど、私はあなたを感じています。

心が張り裂けるほどの慟哭^{どうこく}、暗闇、重い、重いものがあなたの中にあります。しかし、私はあなたに伝えます。

私達は、本当は喜びです。喜びです。あなたの中にあることを伝えます。あなたの意識を感じます。

口で表すことができないほどの重さを感じました。しかし、私は伝えます。心より伝えます。

語らせていただきありがとうございます。あなたに伝えさせていただきありがとうございます。「私達は喜びです。私達は温もりです。お母さんの中へ帰れることが私達の喜びです」、そのように伝えさせていただきました。

心の中を私は感じさせていただきました。これから、私は、この体験を私の中でしっかりと活かしていきたいと思います。

肉を離せば、即、凄まじいエネルギーが怒涛^{どとう}のように覆い^{おほ}かぶさってくることを心に感じました。私はあなたを感じ、そのように認識をさらに深めました。

学びを進めてまいります。私の意識の世界を見つめてまいります。

ありがとうございます。あなたを感じさせていただきました。

そして、私は私なりに伝えさせていただきました。あなたの中へ温もりと喜びの波動を伝えさせていただきました。本当にありがとうございます。

(二〇二一年八月八日 その二)

厳しい現実を感じさせていただきました。父の時より、より一層厳しさを感じました。それは、私の意識の世界があの時よりも、遙かに敏感になっているんですね。私はそのように感じます。

十年、二十年、あつという間に過ぎ去っていきます。

二十年学んできて、どれだけ真実を自分の心に広げてきましたか。

二十年の学びの年月、どれだけ自分に真実を伝えることができましたか。

私は喜び、私は温もり、本当に心から即座に思える人は、どのくらいいる

でしょうか。

私は、厳しい現実を目の当たりにして、皆さんにこのようなメッセージを送らざるを得ません。

今、瞑想をして心に向け、瞬間的に感じる喜び、温もりがなければ、死んでしまえば、やがて、本当に暗闇、真つ暗闇の重い、重い重圧の中に自分を閉ざしていきます。

私達は、本当の自分を捨て去ったのです。私達は、お母さんの温もりを捨て去り、真実の世界を捨て去った意識の世界を抱えて、生まれてきたんです。どうぞ、皆さん、本当に、お母さんの温もり、お母さんの反省、どうぞ、そこから本当に始めてください。

「私は喜び。私は温もり。私は、田池留吉と一つ」、言うのは簡単です。

しかし、ご自分の現実を、真正面からとらえてみてください。

私は、今、そう言わざるを得ません。

厳しい現実を目の当たりにして、しかし、今、肉を持つてできることを精

一杯に、本当に真剣に真摯^{しんし}にやっていく以外にはない、私はそう心に感じます。

(二〇二一年八月九日)

田池留吉、私は本当にいいお勉強をさせていただきました。いい体験でした。そして、私は、自分を思い瞑想をしました。

自分の学びについて、心から、心の底から私が広げてきた意識の世界、感じてきた意識の世界があります。厳しい現実の体験を踏まえて、私は自分を振り返りました。

自分の中に限りなく広がっていく世界があります。どこまでも広がっていく温もりがあります。これが私の世界だと伝えてくる私を、心に感じます。

私はこの自分をしっかりと信じて、信じて、自分の広げてきた世界をしっ

かりと見つめています。自分の中で自分を包んでいます。私は喜びの中にあります。温もりの中にあります。私の中に、その思いが広がっていくんです。何よりも、何よりも本当のことを求めてきました。自分に伝えたかった。本当の温もりと喜びを自分に伝えたかった。

私は、この私の思いとともにある自分を感じています。だから、私には、やはり自分を思うとき、ありがとうしかないんです。

自分に優しい思いを向けることができる。自分に本当の温もりと喜びを伝えることができる。私は、瞑想をして、何度も、何度も、その自分と出会っています。だから、瞑想が喜びなんです。田池留吉を心から呼べる意識の世界が私の現実です。

私は、この意識の世界を抱えて存在していける私の道、私の勉強を続けてまいります

6. 自然治癒力は、すべてを生かす喜びのエネルギー、パワー

いよいよ、最終章。ズバリこれです。

自然治癒力は、すべてを生かす喜びのエネルギー、パワー。

そして、この喜びのエネルギー、パワーこそが私達の本当の姿。

繰り返し書いてきましたが、私達が本当に自分の心を見ていけば、自分達の本当の姿を心で知っていくことができます。

本当の自分がいかなる存在であるのか、心で感じていくことができます。そして、その世界はここまでという区切りがあるわけではありません。

どんどんどんどん限りなく広がっていく世界です。

また、ただ広がっていくだけではなくて、そこには何とも言えない安らぎ、

温もり、優しさが溢れているのです。

そんな世界が実は自分の世界だった、それが私だったと、本当に心で感じ知っていくことが、私達の生まれてきた目的です。

ただし、その目的を遂行していくことは大変難しいことなんです。

なぜならば、私達は、気の遠くなるような長い間、自分を見失ってきたからです。それは、千年、万年どころではありません。

私達は、自分を見失ってきたんです。本当の自分を知らずにきたんです。

本当の自分を見失って、ずっと暗闇の真つ暗闇の中で苦しみ喘ぎ続けてきたのが、私達だったんです。

しかし、今現在、そんなことに殆ど誰も納得できるはずはありません。
うなず 頷けるはずはありません。

ただ、今はそうであっても、これからには納得せざるを得ない、うなず 頷かざるを得ない状況になってくるんです。

そこで、私は、自然治癒力というのは、ただ単に私達の身体や心を回復さ

せて、元気にさせる力という狭い世界のものではありませんと、まず結論づけて、もっと広く、大きく自然治癒力の世界を知っていきましょうという思いを込めて、書き進めていくことにします。

そもそも、五官を持って生まれてきた私達は、当然、その五官から入ってくる情報を中心にして生活をしていきます。

つまりは、目に見え、耳に聞こえて、触れることができる形の世界の中で、いかに豊かで快適で実りある時間としていくか、そのところに腐心していくんです。

そういう時間を長く過ごせることが、自分達人間の幸せと喜びに繋がっていくことだと思っているからです。

自然治癒力というのも、また、そのような延長線上でしか理解されていないでしょう。

つまりは、自分達の身体や心を自然に治癒させていく力が自然治癒力だ。

そして、それは、人間のみならず、動物、植物、生きとし生けるものすべてに、もともと備わっているものなんだ。

さらに、私達はその自然治癒力を向上させていけば、人間はますます元気になるだろう。だから、こうしたいいい、ああしたいいいという研究開発が、様々な分野で続けられるべきだ、とこういう具合でしょう。

これらはみんな五官中心の物の見方、考え方です。だから、自然治癒力そのものよりも、それを向上させるために自然治癒力に着目して、注目していくだけです。自然治癒力の思いを心で感じることはしません。それよりも、自分達の頭脳、技術力を駆使していこうということです。それでも、様々な試みを通して、ある程度、功を奏していくでしょう。

ただ、そこから先の自然治癒力の世界を知っていくことは、五官中心の世界からは不可能なんです。

しかし、実は、そこから先の自然治癒力の世界を知っていくことこそが、大切なことであり、私達には、どうしても必要なことなんです。

そうすることが、私達に本当の幸せと喜びをもたらしてくれることだからです。

私達に本当の幸せと喜びをもたらしてくれるというのは、本当の自分との出会いが現実のものとなっていくということです。

本当の自分と出会えれば、幸せも喜びも、すでに自分の中にあったことはつきりと感じていくんです。

自然治癒力の本当の世界を知っていくということは、本当の自分と出会っていくことになります。本当の自分は、幸せ、喜びだったことを、自然治癒力を通して知っていきけるんです。

ところで、では、もともと幸せ、喜びの中にあつた私達が、なぜ幸せを求め、喜びを求め、悪戦苦闘してきたのでしょうか。

「生きていくのは大変だ。人生、山あり、谷あり。禍福は糾^{かふく}える縄^{あざな}のごとし。人生は苦だ。」

なぜ、そのような言葉があるのでしょいか。そして、なぜそのような表現が、世の中で一応の評価を得てきたのでしょうか。

それは、私達は、誰もがみんな本当のことを知らずに、今の今までやってきたからです。

みんな本当のことを知らないから、人間とはこういうものだ、人生とはこういうものだとか誰かが言えば、なるほど、なるほどその通りだ、よく言ったものだというふうになつていくんです。

みんな同じ土壌から、人間を考え、人生を考えて、そして、幸せや喜び、悲しみ、苦しみなどが織り交ざつた中で、生きて、そして、死んでいきました。それを一言で言えば、五官中心、形中心の中にずっとあつたということです。そして、また、今もあるということです。

その五官中心、形中心の物の見方、考え方を、自分の中から変えていくことが待たれているのです。

自分の中というのは、自分の心、意識の世界を言います。

頭の中を切り替えるのではなくて、自分の心、自分の意識の世界を切り替えることが待たれているというわけです。

それには、自分の心を見る以外に方法はないというわけです。

しかし、人間は心を見てきませんでした。心を見ることを知りませんでした。だから、ずっと悪戦苦闘してきたし、これからもそれは続いていきます。

そもそも、五官中心の形の世界の中で作り上げた幸せ、喜びの形、それは千差万別です。

しかし、共通しているところがあります。それは、形の世界が崩れていけば、その幸せ、喜びの形も崩壊ほうかいしていくことです。

形の世界は、一瞬にして崩れ去ることはあり得ます。

そうすれば、一瞬にして、自分達の作ってきた幸せ、喜びの形も崩れていくんです。

そうなれば、あなたの心はどのような思いを吐露とろしていくでしょうか。

あなたが信じてきた幸せ、喜びの形が崩れていったとき、果たして、それでもあなたは、幸せだ、喜びだと心から思えるでしょうか。

あなたが感じてきた幸せ、喜びは、形があったからではないのでしょうか。もつと言え、形に、あなたは幸せを、喜びを感じてきたのではないのでしょうか。

そのところを、本当に考えてほしいんです。

例えば、自分の周りの風景が一瞬にして崩れ去っていくという場面に遭遇したときどうでしょうか。なかなか現実として受け入れられない中で、しかし、やらなければならぬことは目の前に山積しているでしょう。確かに、気を取り直して、元気を出して、勇気をもらって頑張ろうと前向きに生きていかなければ、何も始まらないと思います。

明けない夜はない、やまない雨はない、陽はまた昇るといった格言を心に刻んで、もう一度立ち上がっていかうとする一方で、だからこそ、今、この

ようなことを真剣に考えるべき時期に来ているのではないのでしょうか、私は申し上げたいです。

五官を使つて自分の心を見ることが本来の姿なんです、そんなことは、学びに参加した私達のように、誰かに教えていただかなければ、なかなか分からないです。いいえ、決して分からないでしょう。

だから、心を見なさい、見てごらんなさい、と伝えていただいたこと自体、どんなにありがたいことなのか、どんなに優しいことなのか。

私はそう思っています。心を見ることを知らなかったら、私は今頃、まだ苦しみの奥深くに沈み込んでしまっている状態だったでしょう。

私の意識の世界は、もちろん、そのような状態だっただろうし、もちろん、それは、自分の身体にも表れてしまっていたと思います。

かろうじて、私は、自分の心を見る、自分の出してきたエネルギーを知つて、それを自分の中で本来のエネルギーに戻していく術を知ったので、本当

に崖つぶちセーフのところから、今は、自然治癒力とは、すべてを生かす喜びのエネルギー、パワーだと自分の心で知るまでにならせていただきました。それは、私の意識の世界がきちんと、「田池留吉の世界」という真実の波動の世界をとらえているからです。

私自身、自然治癒力に思いを向ければ、「田池留吉の世界」から喜びの力強いメッセージが感じられます。それはもちろん波動です。

そして、心に感じた自然治癒力の喜びを素直に、あなたの心から流してくださいというメッセージが来るんです。

だから、私は、そのメッセージ通り、この身体を使わせていただいて、波動をすうーつと流していくだけなんです。それがこのように文字になり、本という形になっていきます。

さて、それでは、最終章ですので、私は、よりはつきりと語っていきます。本の見返し部分に、次のような文言を載せました。

自然治癒力は喜びのエネルギーです。

私達も喜びのエネルギーです。

だから、私達は自然治癒力そのものなんです。

このことを含め、前章で触れた「田池留吉の世界」について、さらに語ってみたいと思います。

「自然治癒力の世界は、皆さんが思っているよりも遙か、遙か大きくて広い世界、限りなく広い世界です。

そして、その限りなく広くて温かい安らぎの世界を心で知っていけば、何ということはない、その世界こそが自分だった、本当の自分だったということになっていきます。」

ここまででは、これまでに綴ってきました。

そして、「ただし、このことは自分の心でしか分かりません。自分の心で知っていくためには、まず自分の心を見るという習慣をつけてください。心を見るときはこういうことですよ」ということを、織り交ぜながら書き進めてきました。

その「心を見る」ことを私達に伝えてくださったのが、田池留吉氏です。したがって、すべてはここにあるんです。

ここにあると言っても、田池留吉氏個人ではなくて、「田池留吉の世界」を心で知っていくことに、すべてはあるということです。

前章で、「田池留吉の世界」は、真実の波動の世界だと触れましたが、自然治癒力の世界も実はそうなんです。

自然治癒力の世界を本当に知っていくということは、真実の波動の世界を感じていくこと、つまりそれは、「田池留吉の世界」を知っていくことなんです。

逆に言えば、「田池留吉の世界」を知らなければ、本当の自然治癒力は分からないということになります。

だから、すべては、「田池留吉の世界」を知っていくことにあるとなってくるんです。

そして、「田池留吉の世界」を心で知っていくためには、田池留吉氏が伝えてくれた「心を見る」ことが、一も二もなく必要なことというわけです。

「田池留吉の世界」を本当に心で感じて分かってくれば、自然治癒力を内在する自分が、本当に喜びのエネルギーであることが、自らの心、そして、自らの肉体細胞を通して体験できるでしょう。それは、痛んだ肉体細胞も大事に至らずに、案外早く回復の兆しが表れる体験であるかもしれません。

もっとも、このように書けば、皆さんの心の中で、欲の思いが膨らむばかりかもしれません。病氣回復のために、「心を見る」というのは、本末転倒です。しかし、その人が、本当に、自分の心を見て、「田池留吉の世界」を心で分かっ

て、自分の心の針をしつかりと「田池留吉の世界」へ向けることができていけば、私はそうなるかと確信しています。

ただ、老婆心かもしれないませんが、ここで一つご注意を。

田池留吉氏、田池先生は、どこにでもいるような一老人です。教祖様でもなければ何でもなし、普通の老人です。

また、田池先生は、「私と欲とは合いません」と最初に言い切っています。そして、それは一貫しています。これまでも、そして、これからずっと、です。だから、欲で田池先生を追い回しても、自分が自分の心を見ることを始めない限り、それは、ただ先生の影を追っていることではありません。

いくら田池先生と顔を突き合わせていても、自分の心を見ることがなければ、「田池留吉の世界」は分かりません。「田池留吉の世界」は、「田池留吉氏の世界」ではないからです。

そうは言っても、先生はもちろん波動ですから、田池先生と話をしている中で、何かに気付いて嬉しいとか、いいえ、特別に何も無いんだけども、

話をするだけで何か心が和らいでくるとか、そういうことはあると思います。ただ、そこから先は、本当に自分次第なんです。そして、そこから先のことを、自分の中で学んでいくことが何よりも大切なことであり、そして、難しいことです。

また、自分の中で学んでいくためには、ある程度の体力と気力が必要だというのも、前にも書かせていただきました。身体も心もある程度元気でないと、心を見ることが難しいのが現実です。

話を元に戻します。

「田池留吉の世界」は、それぞれの心で感じ分かっていく世界です。それぞれの心でしか分からない世界です。

姿、形は普通の老人です。しかし、そこから真実の世界が感じられるのです。ふっと目を閉じれば、その姿、形は消えています。そして、自分の心の中に感じ広がっていく世界があります。それは知っていけばたまりません。たま

らなく嬉しいです。

「田池留吉の世界」を知っていきばいくほど、たまらなく嬉しいというのは、そうなっていけばいくほど、自ずと自分を知っていきけるからです。自ずと自分を知っていきけるとはどういうことなのか。なぜ自分を知っていきけることがそんなに嬉しいことなのか。そういつたことは、ご自分の心で学び、体験していつてください。

心を見る作業を淡々と進めていけば、それはどなたも分かっていることだと思えます。あなたの頭では分からない、心で分かっているのです。

喜びも温もりも自分の中から湧いて出てくるのが感じられれば、こんなに幸せなことも、こんなに嬉しいこともないでしょう。

そして、その幸せ、その嬉しさ、喜びは、繰り返し、繰り返し何度でも起こり、萎しぼんでしまうことも色褪いろあせることもなく、絶えず自分の中に流れている流れだと感じていきます。

このように、今という時は、田池留吉氏という一人の人間を通して、真実の波動の世界に触れることができる千載一遇の時なんです。本当に千載一遇の時です。

私は、今回、自然治癒力というテーマで執筆させていただいていますが、今という時はそういう時なんだということを、一人でも、二人でもいいから、本当に心で感じられるようになってくださればいいなあと思っています。

この時に巡り会った幸せと喜びをしみじみかみしめながら、自然治癒力のほうに心を向けたとき、私の中に上がってきた思いを語らせていただきます。

私達は母の懐^{ふとしみ}へ帰る途上にあります。私達の心の中に、とてもとても冷たくて厳しくて寂しくて、何とも言えない真つ暗な世界が存在しています。その中からようやくこのように、今世、肉体という一つの形を持って、自分を学ぶために生まれてきた私達だということを知っていきましょう。「自分の中を見てください」「自分の中を見ていきましよう」「心苦しく閉ざされた自

分を、もっと本当に自由に明るい方向へ解き放していきましょう」。そんな
思いから、私は自然治癒力のほうに心を向けて本を書き上げたいと思いまし
た。

身体や心の病んだ部分を治す力、それだけが自然治癒力ではないことを、
私は強調してきました。

自然治癒力は自らを癒す力、真っ暗な中から自らを救い出す力、その力が
自然治癒力です。それは、母の温もりの中にあつた私達に与えられた本当の
喜びのエネルギーでした。

ああ、だから、私達は自然治癒力そのものなんです。

本当の自分に目覚めていけば、心の中からどんどん喜びのエネル
ギーが湧いて出てくる。尽きることなく喜びと温もりの中にあつた自分を感
じられる。これが、まさしく自然治癒力の世界なんです。

その世界にあつたからこそ、私達は、今の今まで存在し続けてこれたので
す。そして、真っ暗な中に落ちた私達でさえも、こうして、今、肉体という

一つの形をいただき、自分を見つめさせていただいています。

自然治癒力の世界の中で、つまり、私達は、母の温もりの中で脈々と息づいていました。母の温もりの中で息づいていた自分のこのエネルギー、喜びのエネルギーをしつかりと信じて、信じていけばいいんです。

優しく抱き止めてあげられる力が私達の中にあっただんです。それが自然治癒力でした。

だから私は、自然治癒力に思いを向けると、自分に思いを向ける喜びを感じています。

自然治癒力を思えば、私そのものでした。心の中からありがとう、ありがとうの思いが出てきます。

お母さんに産んでいただいた喜び、優しく、優しく抱きしめてくれる自分があった喜び、そんな喜びが心に広がっていきます。

ところで、自然治癒力は、すべてを生かす喜びのエネルギー、パワーとい

うふうに表現しましたが、このエネルギーとかパワーというのを、どのように理解していくかが、とても大切なことなんです。

例えば、「ここには、すごいエネルギーが流れている」「すごいパワーを感じる」「波動を送っています」「気が集まる場所」。

こういうふうなことは、今までどこかで聞いたことがあります。

「エネルギー」、「パワー」、「波動」、「気」。

「気」という言葉は、「田池留吉の世界」ではなじみがありませんが、「エネルギー」、「パワー」、「波動」という言葉はよく使っています。

そこで、今までどこかで聞いたことがある言葉、あるいは自分が使っていたこれらの言葉と、そして、「田池留吉の世界」から発せられる言葉。

両者にどんな違いがあるのでしょうか。それとも言葉が同じだから違いはないと思いますか。

結論から言えば、全く違うということです。言葉が同じであっても中身は

同じではないんです。

なぜそんなことが言えるのかと言えば、そのポイントとなるのは、あなたの基盤がどこにあるかということです。

もっと簡単に言うならば、あなたは、人間を形あるものだと思っていますか、それとも、形のないものだと思っていますか、ということですか。

「死んだ人は別として、今、生きている人は、みんな肉体を持っている。肉体があるから生きているということでしょう。現に目に見えているではないですか。形がないって、まさか、透明人間でもあるまいし。」

このように思っている人は、肉（形・目に見える世界）が基盤なんです。この章の前の部分では、それを五官中心と言いました。

殆ど^{ほとんど}の人は、そう思っていると思います。肉（形・目に見える世界）を中心として、物を見て、考えて、生活をしています。

つまり、世間というか、この世の中は、形（目に見える世界）を中心とした物の見方、考え方の上に成り立っています。

その最たるものが、私達人間を形あるものとしてとらえている、いいえ、形あるものとしてしかとらえられないことです。

自分達の本当の姿を知らずに、自分はこの顔や頭、手や足、胴体を指して自分だとしているのが私達人間です。

このことを、別の表現をすれば、「肉が自分だと思っている」ということなんです。

その「肉が自分だと思っている」という思いを基盤として、今、この世の中すべてが動いています。つまり、世の中は、形を中心とした基盤の上にあります。

政治も、経済も、教育、科学、文化、医学の世界、その他すべてがそこを基盤として動いています。宗教の世界でさえも、実はそうなんです。

そういう中で、「ここには、すごいエネルギーが流れている」「すごいパワーを感じる」「波動を送っています」「気が集まるところ」と言っているのです。当然に、肉（形・目に見える世界）が基盤です。

その基盤の上で、「エネルギー」、「パワー」、「波動」、「気」といった目に見えないものを感じているということです。

しかし、どこで感じているのかと言えば、心です。心は目に見えないものであり、その心で感じているのだから、感じているものは目に見えない世界だ……ということかもしれません。その人の基盤が肉（形・目に見える世界）にあれば、当然、その心のとらえ方も、形中心ということになってきます。

ということは、その心でとらえた目に見えない世界の基盤もまた肉なんです。たとえば、目に見えないエネルギー、パワーの世界だといっても、その世界の基盤は肉です。

肉が基盤の心のとらえ方というのは、「自分の肉体がなくなれば、心も消える」と思っていることにあります。

肉が基盤ならば、肉体がなくなれば、心も消えて当たり前です。

なぜならば、心は、自分のこの身体の中にあると思っているからです。

胸の中か、頭の中にもあると思っているのです。それが肉を基盤とした

発想です。

そもそも、そこからすでに違っているのですが、それはよく分からないでしょう。

ただ、心というものは、そんな胸の中や頭の中に納まるような小さなものではないということだけは、知っておいていただければと思います。

自然治癒力は、すべてを生かす喜びのエネルギー、パワーだということから、「基盤」という話になりましたが、この基盤ということがとても大切なんです。要するに、基盤が違えば、中身が全く違うということを知ってください。

書かせていただいたように、今の世の中は、肉（形）を基盤として回っています。一人ひとりの人間が、自分を肉（形）だと思って生活をしています。そのような世の中の流れの中で、田池留吉氏は、「私達人間は、本当は、

目に見えないもので、形はなく、しかし、波動、エネルギーとして存在しています」と、はっきりと語っています。

そして、「あなたの基盤を変えてください。変えていけるようなあなたであってください」とメッセージを発信してくれています。

私は、そのメッセージを発信してくれた田池留吉氏を通して、感じていくことができる「田池留吉の世界」に触れていただきたーと思ってきました。

それは、「田池留吉の世界」が、ただ一つの真実の世界であることが、心で分かったからです。

真実を探し続けてきた私の中に、田池留吉氏は、真っ直ぐに伝えてくれました。それは言葉ではありませんでした。私は、田池留吉氏の言葉に納得してきたではありませんでした。

しかし、私の心の世界、私の意識の世界、つまり、私自身がそうだと納得できたのです。頭で納得したものではありませんでした。

肉が自分だと思ってきた私には、幸せや喜びや優しさ、嬉しさ、楽しさ、豊かさなどすべては、形で示されて初めて信じられるものでした。

また、その人から、エネルギーやパワーといったものを感じるといっても、私の場合は、その人の動作、態度、身のこなし方、言葉遣いなどから、そういうものを感じていたに過ぎなかったと思います。そして、それを今思えば、エネルギーあるいはパワフルといったとらえ方をしていたのです。まさに肉そのものでした。

そんな肉で凝り固まっていた私の中を緩ませるといふか、溶かしていった本物のエネルギー、パワーの世界は、母の温もりでした。そして、それが「田池留吉の世界」だと私は申し上げたいのです。

「田池留吉の世界」に心に向けていけば、私達は初めから幸せだった、喜びだった、そして、温もりだったことが、はっきりとしてきます。

「母の反省、瞑想を通して、母の温もりを知ることがすべてです。母の温

もりを知らない人は人間ではありません」、その通りでした。

「田池留吉の世界」に心を向けることでしか、本物のエネルギーもパワーも分らないということなんです。もちろん、自然治癒力の世界もそうです。

「田池留吉の世界」を知らない人に、本当は自然治癒力の世界は分からないのです。分からないのに、自然治癒力を高めて、元気になろうと言っているんだから、無知とは恐ろしいものだと思います。

ところで、世の中には、私のように鈍感な人もいれば、心が敏感で、エネルギーやパワーといった目に見えない世界を感じて、すごいなあ、素晴らしいなあと、ますますそのほうに心を向けていく人も、たくさんおられるでしょう。

その人達は、「エネルギー」、「パワー」、「波動」、「気」といった世界をもつと知りたい、感じたいといったところかもしれないかもしれませんが、それはおやめになったほうがいいというのが私の考えです。

基盤のことを思い出してください。そして、母の温もりというのも、キーワードです。

実は、目に見えないものを感じることはすごいことだとか、素晴らしいことだとかではないんです。逆に危険な場合が往々にしてあります。

それは、みんな、エネルギーを、パワーを、自分の外に求めていこうとする思いを確認しないままだからです。確認しないまま、もっと感じていこうとのめり込んでしまうと、本当に危険なんです。やがてどこかで必ずおかしくなっていくます。

そういう危険が、自分達の周りにはたくさんあると思っておいたほうがいいでしょう。

また、肉が基盤だということは、その心の中には、凄まじい欲が渦巻いているのです。

だから、「目に見えない世界を自分は感じている。その世界は確かにある。

それをこういうふうを活用していけばいいんだ。そして、みんなが元気になって、幸せになっていけばいいんだ」というところから始まって、「元気にしてください。元気にしてあげましょう。幸せにしてください。幸せにしてあげましょう」というところまでなるのに、あまり時間はかかりません。

自分達を元気にしてくれる、幸せにしてくれるエネルギー、パワーを気軽に求めていきます。求めていく自分の心を放置して、貪欲に求めていってしまふのです。しかし、貪欲という意識はありません。

みんなが元気になって、幸せになっていけばいいし、みんなを元気にしてあげたらいいし、幸せにしてあげたらいいということなのでしょう。

それはそれで何も悪いことでもないければ、間違ったことでもないと思っています。そこには、何の違和感もないでしょう。

形を中心とした物の見方、考え方からは、そうでしょう。

自分の外に、エネルギーやパワーを求めていく思いが、逆に、どんなエネルギーを自分から発していくかということなど、全く無頓着です。

自分の中にエネルギーやパワーを感じるものの、よもや、それが自分自身だとは思ってもよらないでしょう。なぜならば、自分は肉、形だと思っているからです。みんな自分の姿を知らずにいるのです。

自分から流れ出すエネルギーがどんなものなのか、そして、それがどういう結果を引き起こしていくかなど、全く論外にして、みんなが元気になればいい、みんなが幸せになればいいとやっているんです。

自分達の本当の姿を知らずに、分からずに、元気で明るく幸せな世の中になるはずはありません。

肉を基盤とした世の中の流れの中にすっぽりと収まってしまつて、それが分からなくなつてしまつたのです。

だから、「ここには、すごいエネルギーが流れている」「すごいパワーを感じる」「波動を送っています」「気が集まるところ」と言われれば、欲の思いがどんどん膨れ上がっていきます。

元気になるためには、幸せになるためにはと、どんどんお金でも何でも注

ぎ込んでいくのです。

それで元気になる、悩み事が解消されて、幸せになるんだったらいいけれど、結果は、毎度報道されている通りです。

基盤を変えない限り、こういったことは繰り返して起ってきます。

それが肉を基盤とした世の中の流れです。

今、この地球上にどれだけの人達が生活をしているのかは知りませんが、みんな、この基盤の上に乗っかっているのです。

私達に、このことを伝えてくれた人が、田池留吉氏というわけです。

さて、この辺で、基盤の話から、再度、「田池留吉の世界」のほうへ話を戻します。

田池留吉氏は、言いました。

「私の言うことをただ闇雲に信じるのではなくて、あなたの心で分かった

ことを信じていきなさい。私が伝えていることが本当のことなのかどうなのかは、あなたの心で分かってきます。

では、あなたの心で分かるとはどういうことなのか。あなたの心を見ていけばいいんです。お母さんの反省をしていけばいいんです。他力信仰の反省をしていけばいいんです。そのように、私がしてくださいと言ったことを素直に実行して、それでも私は幸せが分かりません、喜びが分かりません、未だに苦しんでいます、という人があったなら、皆さんの前で、私は証明します。あなたは私がしてくださいと言ったことを素直に実行していないことを。

私は私が言ったことを素直にしていただけば、誰もが幸せになる道をお伝えしているんです。私はそんなにいい加減なことは申しません。私には自信があるんです。だから、私の言った通りのことをして幸せになれなかったなら、私の頭を鉄パイプで殴っていいですよとまで言っているんです。」

今、私は、田池留吉氏がよく言われていたこのようなことを、ふと思ひ出しました。

過去、何度も聞いてきたけれど、鉄パイプで殴って帰れとまで言った田池留吉氏の思いは、すごかったということが、当時の私にはまだよく分かっていなかったのです。

田池留吉氏が伝えてくれた真実の波動の世界、「田池留吉の世界」を心で感じていけばいくほどに、そう言い切ってくれたことを学ばせていただいてきたこと、「本当にそうだ、その通りだ」と自分の心が頷く体験を何度もしてきたことに感謝ありません。

だから、私は、こうしてはつきりと語れるんです。

どんなに世の中すべてのものが、肉、形を中心にして回り動いていても、そして、あちらからも、こちらからも、ここそが真実の世界ですよという声が上がっても、それらはみんな違っていることがはつきりと分かります。

真実の世界は、肉、形の世界にもなければ、ここそが真実だ、本物だと主張している団体、組織等にもありません。

唯我独尊ゆいがどくそん的な考え方だと反発されようとも、「田池留吉の世界」だけが真

実を語るんです。「田池留吉の世界」を知らないということは、どんなにこの世的に評価された人物でさえ、真つ暗闇の中に埋没しています。

そして、それは、自分が死ねば分かります。誇ってきた頭やこの世的なものは何もかもすべてなくなり、ただまっ暗闇の重苦しいエネルギーが、自分を覆い尽くしていく結果となっただけなんです。

ただし、このことは、今、どなたにでも分かるということではありません。しかし、どなたも心を見て、瞑想を重ねていけば、こういうことは段々と自分の心で感じていけることなんです。

なぜならば、私達はエネルギーとして存在し、そのエネルギーが、過去、何度も、何度も、肉という形を持ってきたからです。

私達の頭には記憶がなくても、私達の心、私達の意識の世界には、その記憶が残されているのです。

それを、心を見る作業を通して知っていきなさいと、田池留吉氏は伝えてくれました。

日々の生活の中で、淡々と心を見る作業をして、そして、瞑想をする時間を持つていけば、どなたも心で感じていける世界が、真実の波動の世界、「田池留吉の世界」です。

「田池留吉の世界」は、生きとし生けるものの中にある世界だからです。

「田池留吉の世界」は、どこから探してくるものではありません。

もうすでに自分達の中にあつたんです。私達人間は、そのことに全く気付かないで、今も存在しているだけなんです。

淡々と心を見て、瞑想を重ねていくということは、自分の心の針を自分の中に向けていくということです。

今まで自分の外に、例えば、自分の仕事、自分の家族、自分の健康、世の中の出来事等に向けてきた思いを、少しずつ、少しずつ、弱めていくところから、まず始めましょう。

弱めていくということは、おさなりにすることではなくて、あまりそいう

うことにとらわれないようにしましょう、ということですよ。

そして、その分、自分を知っていく方向に、つまり、自分の流すエネルギーを感じていく方向に、日々の時間を割いていく毎日を重ねていけばいいのではないのでしょうか。

そうしていけば、分かってきます。自分の中から、伝わってくるものがあるんです。自分の中に響いてくるものがあるんです。

それは、誰が自分に教えてくれたかというところ、お母さんだったんです。お母さんと言っても、自分を産んでくれた母親という狭い意味でのお母さんではありません。

そういうことも、みんな自分の心で分かってきます。

自分にはたくさんのお母さんがいて、そのお母さんの温もりの中に包まれていることを感じてくるんです。

私は、それが「田池留吉の世界」を感じていく本当に第一歩だと思っています。

お母さんの温もりを、自分の中で思い起こし、その中であつた自分だったと本当に心で分かっているければ、仏典や経典、そして、聖書の類など全く必要としないことが歴然としてきます。

難解な言葉を重ね、美辞麗句を並べても、そこから流れてくる波動、エネルギーは真つ黒だと心で分かるからです。

また、厳しい修行を重ねていけば、悟りの境地に到達するなど、本当に愚の骨頂だということも分かってきます。修行などもつての外です。肉体細胞に対して、優しさのひとつかけられもないから、そういうことができるのです。自分に対して本当に冷たい、むごいことをして、何を悟ろうとしていくのでしょうか。

このように、「田池留吉の世界」は、世の中の流れとは全く違います。世の中の流れと「田池留吉の世界」の流れ。この二つの流れは、合い交え

ることはありません。そのどちらにも足を踏み入れてということは、絶対にあり得ないんです。

今は、殆ど^{ほとんど}の人は、世の中の流れの中にすっぽりと収まっています。

その流れだけしか知らないんです。自分の周りを見渡しても、みんなそうだから、例えば、あなたの基盤はどこにあるかなんて言われても、それ、どういうこと、変なことを言う人だというくらいで終わってしまいます。

しかし、これからは、そうは言っておれない事態にどんどんなっていくんです。

「田池留吉の世界」だけが真実を語ると私は申し上げましたが、これから、それが、色々などところで証明されていきます。

証明されていくというのは、「田池留吉の世界」から語ってきたことが、現実として形となって表れてくるということです。

「田池留吉の世界」からは、肉、形を基盤とする世の中は間違いだと語っ

ています。だから、そのメッセージ通り、世の中は、色々なところで崩壊ほうかいしていつているのです。

政治の世界も、経済の世界も、教育界も、スポーツの世界も、医学界も、もちろん、宗教の世界も、その他あらゆる分野で様々な問題が噴出して、汚い部分が明るみになってきているではありませんか。

もちろん、自然災害がもたらす崩壊ほうかいは、どんどん過去の記録を更新していきます。エネルギーが巨大化して、想定外のことが起こってくるのです。

「将来が見通せない。不透明だ。世の中どうなっていくんだろうか。私達はどうなっていくんだろうか。」

私達の心の中に、先が見えない不安な思いをどんどん噴き出させるような想定外の出来事が、たくさん起こってきます。

そのたびに、私達は、何とか、何とかと目の前の出来事に対処していくけれども、追い打ちをかけるように、次から次へと、想定外の出来事が起こっ

てくるのです。

それは、やがて、打つ手もない、なす術すべがないというところまで、事態は深刻化していきます。

「助けてくれ。救ってくれ。何とかしてくれ。」

SOSの合図に対応していける間は、大変だけれどまだまだいいんです。

しかし、やがて、それにも限界が来るということを知っておいてください。

「なぜ、このような二進にっちも三進さっちもいかない事態に私達は遭遇そうぐうしていくのだろうか。」

事態の收拾に躍起になり、生活の立て直しに奔走ほんそうするばかりではなくて、本当は、みんなそれぞれがそのところを、もつと考えていかなければならないとか、考えざるを得ないところまで、自分達を追い込んでいきます。

「自然的に引き起こされたもの（自然災害）であろうと、人為的なものであろうと、ある日突然に、しかも、一瞬のうちに自分達の生活も人生も何もか

もみんな奪われてしまった。崩壊ほうかいしてしまった。頭の中は真っ白になって、何をどうすればいいのか、これからどう生きていけばいいのか、本当に途方に暮れた。落ち込み、苦しみ、悲しみのどん底から立ち上がれないほどのショックを受けた。」

もちろん、これまでに、そういう現実^{じじつ}に直面してきた人達はたくさんいます。

では、そんな体験を経ってきた人達の中に、「なぜ、このような二進にしんも三進さんしんもいかなない事態に私達は遭遇そうぐうしていくのだろうか」と考えた人は、どのくらいいるでしょうか。

「田池留吉の世界」から流れ出すエネルギー、パワーは、それを私達に促すような仕事をしていきます。

自分達の間違いに自分達で気付けるように働いていくのです。私達に、自分達の本当の姿を知っていきなさいと、メッセージを流し続けます。

そのエネルギーは半端なものではありません。世の中の流れを根底か

くつつがえ
ら覆そうと働きかけるエネルギーです。過去の体験、経験、実績など殆ど役に立ちません。

その時、その瞬間、自分の心は何を叫ぶか。自分の中が鋭く抉り取られるような叫び。「ああ、私は間違っていました」と、瞬間、そう思えて肉を捨てていく人達がいれば、それでいいのではないでしょうか。

ここまでページを割いて、「田池留吉の世界」について、基盤ということに触れながら、私の思うところを書かせていただきました。

自然治癒力を思えば、「田池留吉の世界」に私の心が向いていくからです。自然治癒力の世界を語るということは、「田池留吉の世界」を語るといことになります。

このことは、自然治癒力だけではありません。例えば、肉体細胞に思いを向けてということは、「田池留吉の世界」に心を向けてということと同じなんです。

今、私は、「田池留吉の世界」に心が向いていくと書きましたが、この「田池留吉の世界」に心を向けてということがすべてなんですが、これがまたとても難しいことなんです。その辺のことを少し書き添えておきます。

例えば、病気の最中^{さなか}に、あるいは色々と困った状況の最中^{さなか}に、自分の心を見て、心の針を正しい方向、「田池留吉の世界」に向けていくことは、日頃からの訓練がなければ、とても、とてもではないですが難しいです。常日頃から、心の針の向け先を管理することを心掛けていなければ、いざという時、そんなに簡単に針を向けることはできません。

どうしても、自分の身体の状態、自分の周りで起こった出来事の進展に、思いが向いてしまいます。肉、形を本物としてずっと今まできたわけだから、どうしても、目の前の出来事に引きずられていくとか、身体が不調ならばそちらのほうに、心は流れていきがちです。頭では、「田池留吉の世界」です。しかし、心はままなりません。その狭間^{はざま}でうろうろしているだけというのが

実情です。「田池留吉の世界」に心に向けていけばいいことは分かっていますが、そう簡単には、「田池留吉の世界」に心向けることはできないんです。

また、そういう状態でない場合も、ただひたすらに「田池留吉の世界」を思っ
ていくことは、難しいと思います。

心の根底にあるのは、やはり欲の思いです。「田池留吉の世界」に向けて
と向けているつもりでも、欲で向けていては、他力信仰の延長のままです。
しかし、この欲で向けているということに気付くのもなかなか難しいんです。
気付くというからには、自分で気付かなければなりません。

本人は向けているつもり、しかし、実は向いていない。自分で気付かない
限り、そういう状態が長く続いていくでしょう。

ところで、「田池留吉の世界」からは、確かに、百パーセントの喜びと温
もりのエネルギー、パワーが流れているのです。

その百パーセントの喜びと温もりのエネルギー、パワーを、百パーセント

受け取っていただける心、意識の状態であれば、それは、そこにいわゆる奇跡が起ります。

例えば、病気であれば、医者が驚くほどの回復が見られるのです。医者の見立てとは全く違う方向で、元氣を取り戻すということもあり得ます。

あなたは、このことをどう思いますか。私は信じられるのです。それほどに、「田池留吉の世界」から流れる百パーセントの喜びと温もりのエネルギー、パワーはすごいということを感じています。

ただ問題は、百パーセントの喜びと温もりのエネルギー、パワーを、百パーセント受け取っていくことができないという現実があるということです。それが、「田池留吉の世界」に心を向けていく難しさと繋^{つな}がっていきます。

その現実とは何か。それは、それぞれの心の中に作ってきた他力の世界を、未だに大きく広げているという現実です。

他力の世界……。肉が自分だとする思いから、その自分を幸せにしてくれるもの、自分に喜びを与えてくれるもの、自分にパワーを与えてくれるもの

として貪欲に求めてきた、神、仏、宇宙のパワーといった世界です。

それを、一言で言うならば、己一番、我一番の世界です。

肉を自分だとする思いは、己一番、我一番の世界を作り上げました。その思いは、本当の自分を捨て去り、自分を売ってきた思いです。

他力の世界は、欲にまみれた苦しくて、そして、果てしなく寂しい暗闇の世界です。

そんな世界が、自分の中の「田池留吉の世界」を遮さへぎっていくのです。自分の中に作ってきた己一番、我一番の世界が、本物の自分を遮断しやだんしてしまうのです。

自分を自分で遮さへぎって、自分を苦しめていくことにエネルギーをどんどん注いできた自分でしたと、心からの気付きと懺悔ざんげ、その思いが心から噴き出てこない限り、自分の作ってきた他力の世界を自分の中で崩していくことは困難です。

それは本当に困難なんです。しかし、困難だからといって、やめるとか諦

めるわけにはいかないんです。

それは、あなたの心が本当に敏感であれば感じられると思います。

過去のあなたがどんな世界にあったか、どんなところから這い上がってきた自分であるか、息も絶え絶えに這い上がってきて、今の肉を持って、ようやくひと息ついている状態だ、そういうことが感じられると思います。

そのように感じられるからこそ、自分の中に作ってきた他力の世界の崩壊ほうかいという困難なことに全力を傾けること、これこそが自分の一番の仕事だということも、はっきりと分かるはずです。自分が愛しいと感じるからです。自分を救いたいと思うからです。

だから、自分の変革に全力を傾けていきます。全力を尽くしていきます。そのためには、「田池留吉の世界」に真正面から向き合わなければならぬことを知ります。

そして、「田池留吉の世界」に真つ向から抗あらがつてきた自分を、どんどん見つけていこうとします。自分の中の「田池留吉の世界」を遮断しやだんする扉を、ど

んどん開いていこうとします。

やがて、開いていく鍵が、自分の中にあつたことを知っていくのです。

「ああ、お母さんの反省、瞑想と、他力信仰の反省、これが車の両輪だ」、そんなことがどんだん自分の中で感じていけることが、本当に心が敏感だと言えるのだと思います。

このように、自分の中に作ってきた他力の世界の崩壊ほうかいにより、「田池留吉の世界」を自分の中で証明していけるのです。

そうなつて初めて、しっかりと「田池留吉の世界」に心を向けられるのです。誰が証明するでもない。自分の心が、自分の意識の世界が、証明していくのです。

だから、心を向けていけばいくほど、「ただ向けていけばいい。どんだん向けていけばいい。ああ、『田池留吉の世界』しかないんだ。みんな、『田池留吉の世界』なんだ」。

そんなことが、手に取るように感じられます。

欲で向けようとしても、絶対に「田池留吉の世界」には心を合わすことができません。なぜならば、「田池留吉の世界」は欲と絶対に合わないからです。

ということ、で、「田池留吉の世界」は真実を語っているけれども、世の中の流れの中にあつては、「田池留吉の世界」の流れは決して分らないことを、長々と書かせていただきました。

さて、「田池留吉の世界」が語る真実が、これからどんな形となつて示されて、「田池留吉の世界」だけが、真実の世界だと証明されていきますと結ばせていただいて、ここで、もう一度、本書の見返し部分に戻ります。

自然治癒力は喜びのエネルギーです。

私達も喜びのエネルギーです。

だから、私達は自然治癒力そのものなんです。

どうぞ、あなたも自然治癒力と思ってみてください。その世界から流れてくる波動を、あなたの心で感じていただければと思います。

自然治癒力の世界は語ってきます。

「私達は、自然治癒力そのものだということがあなたの心でうなずくことができますか。すべては波動の世界です。だから、すべてはあなたの心で感じていくことなんです。心で感じていけることなんです。その心を学ぶということをしていきましょう。

本物の世界を学んでいきましょう。自分とはどんな存在であるのかを、自分に伝えていける優しい人間に生まれ変わります。

人に、家族に、世間に認められても、自分が自分を認めることができずにいるあなたではありませんか。」

自然治癒力の世界は、さらに語ってきます。

「自然治癒力を通して、どうぞ、『田池留吉の世界』を知って、そして、感

じていってください。どうぞ、本当の自分を知ってってください。自分の中のたくさんの自分と出会うチャンスを大切にしてください。」

自分の中のたくさんの自分と出会うチャンス……。

例えば、今、あなたの肉体細胞が病んでいれば、あなたは絶好のチャンスにあるんですと、自然治癒力は語っているはずなんです。

「あなたの肉体細胞に思いを向けて、肉体細胞の思いと一つになっていくように、心を見ていきましょう。」

このように、どんどん自然治癒力の世界から、メッセージが届きます。

病気をマイナスのイメージとしかとらえられなかった私の心に、自然治癒力の世界が伝えてくれました。

「あなたは本当のことを知らなかっただけです。本当のご自分を知らずにきただけのことなんです。」

そして、私の肉体細胞もまた、自然治癒力と同じように私に伝えてくれて

いました。

自然治癒力も、肉体細胞も、とても優しい波動で私に伝えてくれています。「私達はあなたです。この波動があなたなんですよ。」

どうぞ、あなたも自然治癒力と思ってみてください。その自然治癒力の世界から流れてくる波動を、あなたの心で感じていただければと思います。自然治癒力の世界は語ってくれました。すべては波動の世界であり、それはあなたの心で感じていける世界。そして、その感じていける心を学んでいきましよう。

目で見て、耳で聞いて、手に触れて、頭で考えて納得できる世界は、本当にちっぽけな薄っぺらな世界なんです。

ちっぽけでしょう、薄っぺらでしょうと形を崩しながら、私達に伝えてくれている優しさ、温かさを心で感じていけるようになっていけば、自然治癒力は喜びのエネルギー、パワーだということも、もちろんうなずけます。

そして、そういう人達がたくさん出てくれば、世の中は間違いなく変わっていきます。

すべてを心でとらえていく流れ。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感と頭脳でとらえていく流れではなくて、自分達の心、意識の世界でとらえていく流れ。この流れこそ、私達本来の流れです。私達本来は、波動、エネルギーだからです。

その本来の流れに戻っていきましよう、自然治癒力は私達の身近なところから語ってくれていました。

生きとし生けるものの中に、自らを再生させる力が宿っていることを、私達は知っています。

その身近な自然治癒力の世界も、そして、さらに自分の心の世界、意識の世界を広げて感じる自然治癒力の世界も、みんな、みんな、私達に本来ある姿に戻っていきましようと言ってくれています。

その喜びの波動を感じていけるように、私達が本来の私達を取り戻してい

くことが待たれているのです。

心の針を正しい方向に向けることを知って、そして、実践していけば、どなたも、今という時がどんな時なのかを自分の心で知っていくことができます。自分が、なぜ生まれてきたのかを心で知っていくことができます。

そして、自分というものを知っていけばいくほど、嬉しい、ただただ嬉しい、ありがとう、ありがとうの思いが湧いてくるという体験をされるでしょう。

それは、半端な嬉しさ、喜びではありません。温もりと安らぎを伴って、本当に嬉しいんです。ああ、自分が癒いされています。感覚、心地よい中に広がっていく感覚です。

何も分からずに苦しんできた自分に、優しさと温もりを伝えている自分があります。その優しさと温もりにはだされて、どんどん癒いされています。それがたまたまなく嬉しくて幸せなんです。

自分に癒いされていく喜びと幸せ、そして、本来あった自分に再生させていく喜びと幸せを、味わっていると言ってもいいでしょう。

そんな体験を重ねていけば、自然治癒力の世界とは、どんなに大きくて喜びの世界なのか、知っていくことになります。

それには、日々の生活の中で自分の心を見ることから始め、「田池留吉の世界」から語っていることが信じられるようになるまで、自分の心の中をしつかりと見つめていくことが、必要だということは言うまでもありません。

「田池留吉の世界」から語っていることが信じられるようになるまでというのは、世の中の人々が、そうだと思い、そうだと信じている流れは、本来の流れ、本流ではなく、濁流だくりゅうだと自分の心で確認できるまでということです。

濁流だくりゅうだと本当に自分の中で確認できれば、世の中との付き合い方、自分の身の振り方、処し方が自ずと決まってくるのではないのでしょうか。

凄まじい勢いの世の中の濁流だくりゅうに押し流されて、あつという間に人生を閉じるということは、本当はあつてはならないことなんです。

なぜ生まれてきたかが分からずに死んでいくことは、本当に哀しい切ない

ことなんです。

自然治癒力は語ります。

「あなたの中で切実に訴えている自分の声に、もっと素直に、そして、真摯しんしに耳を傾け、心を傾けていきませんか。

切実に訴えている自分の声に、耳を傾け、心を傾けていける優しい自分になつていきませんか。」

確かに、濁流だくりゅうの中で、みんなと流れていくほうが生きやすいかもしれない。しかし、自分の心を見て、自分の心の中を感じていけば、自分を裏切る生き方はできないはず。切実に訴えてくる自分を放っておけないはず。心をどんどん見ていき、どんどん自分の中を感じていけば、苦しい自分もあるけれど、本当に優しい自分もあることが分かるからです。その優しさが自分に迫ってくるのです。

そういう心の見方をしていけば、やがて、本当の優しさ、本当の温もり、本当の喜びが心で分かってきます。

そうすれば、「田池留吉の世界」が語る自然治癒力とは、本当に喜びのエネルギーなんだと感じてきます。本来あった私達に再生させていく喜びのパワーなんだと感じてきます。

喜びのエネルギーであり、喜びのパワーである自然治癒力は、例えば、私達に、次のようなメッセージも伝えてくれています。

「川が氾濫して濁流が街中を流れ出す。山が崩れ土石流となってさらに岩肌を削いでいく。そして、大津波が人も街もみんな一瞬にしてさらっていく。今、日本の国でも、そういうことがあちらこちらで起こっています。」

それは、単に川が氾濫する、山が崩れる、大津波が起こるという一つ一つの災害ではありません。

それは、まさに私達の心の中の濁流です。その濁流の勢いと凄まじさを、自分達の目で見える形で自分達に伝えていくのです。

その場面に遭遇して、その場面を目の当たりにして、私達は何を感じ取っ

ていくのでしょうか。

ただ不安と恐怖の思いばかりを募らせ、そして、祈ることしかできない心の中をしつかりと見つめていきなさいと、川が氾濫はんらんしていくのです。山が崩れ、大津波が起こってくるのです。」

そして、また、自然治癒力は語ります。

「メッセージを言葉でとらえることをせずに、あなたの心で感じてください。自然治癒力が語るメッセージの波動を感じてください。

あなたの心が、本当に母の温もりに触れているならば、このことは、はっきりと分かっていただけだと思います。

メッセージは波動です。メッセージはエネルギーです。エネルギーは仕事をします。メッセージ通りの仕事をします。

喜びのエネルギーが形の世界を崩していくのです。喜びで促し続けていくのです。」

このように、自然災害によるものだけではなく、私達人間が築き上げてきた社会、世界が、あちらからもこちらからも崩れていきます。

一見すれば、そこには様々な要因が重なってということかもしれませんが、なぜそうなっていくのかという本当の訳は、たった一つです。

私達人間だけが、自分の本当の姿を知らずに今もなお存在しています。私達は、自分を癒^いし生かす喜びのエネルギー、パワーが、自分の中にあることを知りません。喜びのエネルギー、そのものであることを知りません。

私達は、喜びを忘れました。ありがたいの思いを忘れました。

喜びだけの私達だったのに、いつの間にか、欲の中に埋没してしまったのです。

これが私達人間の現状です。

喜びしかない世界があるなんて、全く信じられないということならば、そ

れは、欲で塗り固められた中にあるからです。

欲で塗り固められた世界。それが、私達人間が築き上げた社会です。

どうぞ、皆さん、自分達の本当の姿を心に蘇^{よみがえ}らせていきましょう。

私達はみんな、本当の自分に会えることを心待ちにしているんです。

「私達は意識、波動、エネルギーです。目に見える姿、形が私達ではありません。」

これは、私達が、自分に伝えているメッセージなんです。

全く同じく、「田池留吉の世界」が語る、自然治癒力が語る、肉体細胞が語るということは、私達自身が語っているということなんです。

私達は、意識、波動の世界の中で一つだからです。

「田池留吉の世界」が私達であり、自然治癒力の世界が私達であり、肉体細胞の世界が私達なんです。

私達は、もともと同じ喜びの波動、喜びのエネルギーだけを流していました。

すべては喜びの中にあったんです。その私達が、目に見える姿、形を自分だと思った瞬間から、喜びの波動を流すことができなくなりました。自分を見失ってしまったからです。

自分を見失った私達は、当然、彷徨^{さまよ}い続け、苦しみ続けました。

そして、寂しい、苦しいと叫ぶ私達からは、暗い、真っ暗な波動だけが流れていきました。

あまりにも寂しくて、あまりにも苦しいから、私達はたまらなく癒^いしと温もり、安らぎを求めました。そして、苦しみに打ち克つパワーの世界を求めていきました。

それが、いわゆる神の世界でした。私達は、自分の外に、神の世界を創り上げたのです。

そうして、癒^いしも温もりも安らぎも、みんな自分の外に求めていくようになりしました。

苦しみに打ち克つパワーを求め、さらに、より強いパワーを求めていくよ

うになり、そして、そのパワーの威力を競い合うようになったのです。

そのように、求めていけばいくほど、自分がさらに暗い真つ暗な中に沈んでいくことが、なかなか分かりませんでした。苦しいから求める、求めていけばさらに苦しくなる、この繰り返しを何度も、何度もして、私達は、今という時を迎えているんです。

そして、その中のほんの一握りの人達が、自分の心を見てくださいというメッセージに触れたのです。

「心を見てください。心を見ていきましょう」という誘いが、どんなに優しく温もりのある誘いなのかは、それぞれがそれぞれの心を見ていけば、自分の心で分かってきます。感じます。

心を見るということを知ったにもかかわらずに、心を見ないで死んでいくことは、とても残念無念なことです。

自分の心を見るということを始めなければ、何も始まらないということ

最後に書き記しるします。

私達の世界には、喜びだけしか存在しません。

どうぞ、本当の喜び、本当の温もりを知っていきましょう。それが本当の自分の姿だと心で知っていきましょう。

そして、ありがたいの思いが、あなたの道を開くことを信じていってください。

7. おわりに

最後まで読んでいただきまして、ありがとうございます。

本書は、「自然治癒力を高めて、あなたの身体を元気にしましょう。あなたの心を元気にしましょう。そのためにはこのようなことをしてください。このようなことを心掛けてください」といった内容のものではありません。

私は、自然治癒力そのものに、あなたの心を向けていたきたいと思いつながら、綴ってまいりました。

本書は、頭で理解して頭で納得するのではなくて、心で感じて心で納得していただける内容に仕上がっていると、私は思っています。

本書を通して、あなたの心に何かを感じていただければ嬉しいです。

あなたの心……、そうです。心で感じていくことを、どうぞ、大切になさつ

てください。

自然治癒力の世界は目に見えません。しかし、あなたの心で感じられるんです。感じられる心をあなたの中で育んでいきましようということなんです。

目に見える世界と、目に見えない世界……。

書かせていただいたように、これから目に見える世界は、色々なところからその形を崩していきます。何でそうなるのか、それは、あなたの頭では絶対に理解できないでしょう。

しかし、現実を起こってくるんです。必要だから起こってくるんです。形の世界が崩れていくことが私達には必要なんです。

そうなっていくことで、私達は自らを促していきます。だから、色々なところから、繰り返し崩壊ほうかいしていきます。そして、その崩壊ほうかいの規模も大きくなっています。

自らを促し、自らを気付かせるために、起こってくる様々な現象。

それらをどのように受け取っていけばいいのか、いくべきなのか。それは、すべてあなたの心の中から回答が得られるはずなんです。

私達人間は、頭を駆使し、頭を誇っています。過去からのデータを分析して、未来を予測しようとします。

しかし、私達の体験、経験、実績、そういったものは全く役に立たないという局面を、私達は迎えていきます。

嘆き悲しみ苦しむ中から、私達が立ち上がるには、まず間違った方向を向いていることに気付いていかなければならないでしょう。それから、その方向を本来あるべき正しい方向に向けていくことが待たれるのです。

それが、これからの私達がしていかなければならないことです。

間違った方向、そして、本来あるべき正しい方向、これをそれぞれが自分の中で見極めるために、これからの時間がそれぞれに用意されています。どうぞ、そのことを喜んで自分の中で受け入れていきましょう。

最後に、もう一度、本の見返し部分に綴った三行を掲載します。

自然治癒力は喜びのエネルギーです。

私達も喜びのエネルギーです。

だから、私達は自然治癒力そのものなんです。

私達は、自分を生かす喜びのエネルギー、自分を癒^いす喜びのエネルギーです。どうぞ、自分の心を見て、本当の自分と出会っていつてくたさい。

塩川香世（しおかわかよ）

1959 年 3 月大阪市に生まれる。

1991 年 3 月税理士登録。

税務関係業務に従事、現在に至る。

著書／「ありがとう」意識の流れ姉妹編（2006.8）

「母なる宇宙とともに」Ⅰ、Ⅱ（2007.3）（2007.4）

「意識の転回」ver1.0（2007.8）

「愛と死の真実」（2008.4）

「あなた、このまま死んでしまっていていいのでしょうか」（2009.5）

「第二の人生」—ラストチャンスです—（2009.10）

「意識の流れ」—増補・改訂版—（2010.5）

「その人、田池留吉」—田池留吉の世界—（2010.10）

「続 意識の流れ」—改訂版—（2010.12）

「宇宙の風」—私達人間は、死んで終わりでしょうか—（2011.5）

「意識の転回」ver2.0（2011.8）

その人、田池留吉 Ⅱ 田池留吉の世界—自然治癒力—

初版発行 2011 年 11 月 20 日

著 者 塩川香世

発行者 桐生敏明

本文組版 中村康一

電子図書製作 DEP（株式会社シルクふぁみりい）

発行 UTAブック（株式会社シルクふぁみりい）

奈良県北葛城郡広陵町馬見北 4 丁目 14-7

TEL 0745-60-2696 FAX 0745-60-3098

印刷・製本 モリモト印刷株式会社

© Kayo Shiokawa, Printed in Japan 2011

UTA ブック

田池留吉・塩川香世
意識の流れ 増補・改訂版
定価10000円 (税込)

田池留吉・塩川香世
続意識の流れ 改訂版
定価8000円 (税込)

塩川香世
意識の転回
定価8000円 (税込)

塩川香世
その人、田池留吉
田池留吉の世界
定価10000円 (税込)

塩川香世
宇宙の風
定価10000円 (税込)

塩川香世
母なる宇宙とともに I・II
定価各7000円 (税込)

塩川香世
あなた、このまま死んで
いつていいのでしょうか？
定価8000円 (税込)

塩川香世
第二の人生
定価8000円 (税込)

人間は、過去より真実を求めてきた。しかし、実際は、誰一人として、真実というものを知らずに死んでいきました。私達自身が真実に目覚めない限り、私達は救われないのです。

これから世の中は、ますます混沌の度合いを増していきます。人々の心に眠る狂ったエネルギーが形に表れ、天変地異の嵐が吹き荒れていきます。すべて意識の世界が反映されたものです。

「意識の転回」とは、考え方の根本を一八〇度変える、転回することです。それは、ただ単に意識を変えるというのではなく、物の見方、考え方の土台を全変えるということなんです。

田池留吉という人名がついていますが、その人個人の世界という狭い世界のことではありません。田池留吉との出会いがあったからこそ、自分かぎらず生まれたかたの心で知ることができました。

「あなたの中に、確かに宇宙は存在する」あなたが宇宙というエネルギーが、あなたの肉を通して、あなた自身を本々のあなたへ目覚めさせていくのです。

宇宙とは、太陽系の惑星云々の形の世界ではなく、波動の世界なのだと思えます。その宇宙とは、実は自分自身であり、私は宇宙そのものであり、宇宙とはエネルギーなのです。

私は、たったひとつの真実を求めて、今の時代に生まれてきました。そして、半世紀の時間を経てきました。そして、ようやく辿り着いた真実の世界は、実に単純明快な世界でした。

第二の人生をこれから歩もうとされているあなた、そんなあなたに、今だからこそ、少し考えていただきたいことがあります。あなたは、何のために生まれてきましたか。

塩川香世
愛と死の真実
定価7000円 (税込)

塩川香世
ありがとう
定価8000円 (税込)

本田せつ子
さびしい子供たち
定価10000円 (税込)

本田せつ子
お母さん、ごめんなさい
定価8000円 (税込)

本田せつ子
母親のぬくもり
定価8000円 (税込)

本田せつ子
家族の風景
定価7000円 (税込)

本田せつ子
幸せへの道が開かれて
定価7000円 (税込)

桐生敏明
時を超えて伝えたいこと
定価7000円 (税込)

あなたは、これまで自分の死を考えたことがありますか。自分が死ぬ、人が死ぬ、それは、どういふことだろうかと思ったことがありますか。では命とは何でしょうか？

自分というものの本質を知らない人間は無知でしかないと思えます。いくら「このように生きてきました」と語ってみても、本当の自分を知らなければ、自分を語るなどできないのでは……

この本は一般的な教育書でも心理学書でもありません。でも本が大切なことを伝えたい、心理学や教育を超えたところに存在する真実に自ら気づいて、いつかというの思いから書き進めています。

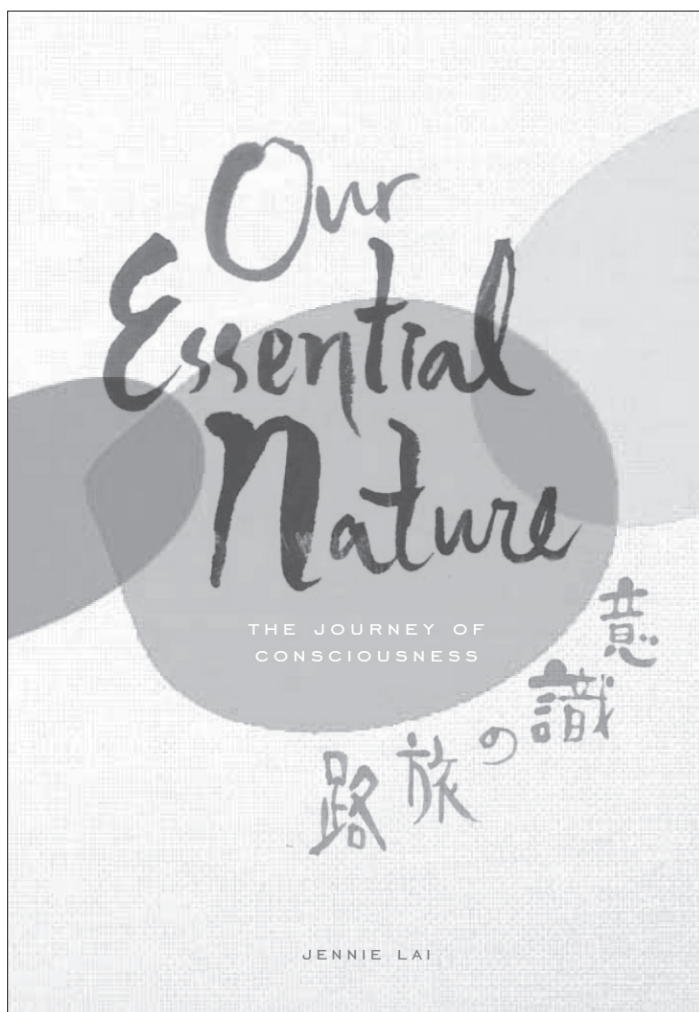
あなたは何を求めていますか。自分にはないものを与えられていないもの、手に入れないものを、羨み、恨み、その牙を生きた環境に、そして、母親に向けてきたあなたがいませんか。

近年、子供を取り巻く環境は狂っている、とか言いまわす状況です。その中で子供の問題も多発しています。子供の周辺で起る事柄は、いったい何を伝えようとしているのでしょうか。

家族の中でいきかいが始まるとき、そこには大きなエネルギーが働きます。相手と思う、よかれと思つて、でもその根本にあるものは、結局、自分のためではなかったのでしょうか。

精神障害者とは、どのような人のことを言うのでしょうか。それは特別なことではないでしょうか。私は決して特別なことではない、誰でもその可能性を心の中に秘めている、そう感じています。

君の時代にも、まだ日本という国は存在するのだろうか。僕は生まれた国、僕が生きた国、そして大切な人々と出会った国だ。この地で大切な人と出会い、大切なことを伝えられた。



11 月下旬発売予定！

「Our Essential Nature / 意識の旅路」

Jennie Lai 著 / ホーグ養子 訳

英語版・日本語版併載 A5 判 1,260 円 (税込)